Ｖ.１．教員の教育研究・社会貢献活動

（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）

（１）言語文化専攻

【言語文化比較交流論講座】

小門　典夫　(KOKADO Norio) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉比較言語文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉中国語

〈研究テーマ〉ルールに基づく多言語対応型機械翻訳ソフトの開発

小杉　世　(KOSUGI Sei) 准教授

https://sites.google.com/site/seikosugi/

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語文化変容論

〈共通教育担当科目〉総合英語、英語 (Reading)、実践英語、専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉言語文化比較交流論

［研究活動］

〈研究テーマ〉英語圏文学、オセアニアの先住民・移民文学文化と先住民言語教育、ポストコロニアル文化形成論、モダニズム研究、演劇とコミュニティ、環境芸術と文学、核の表象、医療と文学、先住民医療

〈所属学会〉日本英文学会（日本英文学会関西支部）、日本オセアニア学会、オーストラリア・ニュージーランド文学会、オーストラリア学会、ASLE-Japan（文学・環境学会）、エコクリティシズム研究学会、日本文化人類学会、日本ヴァージニア・ウルフ協会、NZSA (New Zealand Studies Association, UK) 、国際演劇協会（ITI）

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・『トランスパシフィック・エコクリティシズム――物語る海、響き合う言葉』伊藤 詔子・一谷 智子・ 松永 京子 編、彩流社、ISBN: 9784779126147、2019 年 9 月．（執筆担当章：10 章「マーシャル諸島から太平洋を越えて――キャシー・ジェトニル＝キジナーとロバート・バークレーによる戦争・核／ミサイル実験・地球温暖化の表象」pp.175-189.）

〈論文〉

・「［ニュージーランド］文化の交差点で――マオリ・太平洋諸島移民・アジア系移民の舞台芸術」『国際演劇年鑑 2020：世界の舞台芸術を知る（Theatre Yearbook 2020: Theatre Abroad）』国際演劇協会日本センター、2020 年 3 月、pp. 112-122.　（依頼原稿）

・「オーストラリア・ニュージーランド文学会創立 40 周年大会特別講演 コメント（要約）」『南半球評論（The Southern Hemisphere Review）』35 巻、pp. 13-14. （依頼原稿・英語）

・「詩人の杖 (トコトコ) の物語――NZ 桂冠詩人 Selina Tusitala Marsh 氏を迎えて」『言語文化共同研究プロジェクト 2018 : Cultural Formation Studies I 』大阪大学大学院言語文化研究科、2019 年 5 月、pp. 71-81. DOI: 10.18910/72735.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「人新世の芸術実践―気候変動と核をめぐって」第 4 回大阪大学豊中地区研究交流会「知の共創」、基礎工学国際棟セミナー室・ホワイエ、2019 年 12 月 17 日. （ポスター発表）

・「クリスマス島における英米核実験――キリバス民間人の視点から」国立民族学博物館共同研究会（オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究）、国立民族学博物館、2019 年 11 月 30 日. （口頭発表）

・'Nuclear Issues across the Pacific: Can Our Imagination Save the Planet?' ニュージーランド文学会創立 40 周年記念講演会（David Lowe 教授の講演への応答コメントとして、3 名がシンポジウム形式で英語口頭発表）、2019 年 11 月 2 日.

・'Trans-Pacific Imagination of Resistance and Resilience in the Anthropocene' Innovative Textual Practices in English in the Asia-Pacific, Kobe College, 19 October 2019.（国際シンポジウム口頭発表）

・'Narrative of i-Kiribati Civilian Residents in Kiritimati: Nuclear Legacies and Pollution' IUAES Inter-Congress 2019 (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences), Adam Mickiewicz University (Poznan), 30 August 2019.（録音とパワーポイントによる国際学会口頭発表）

・「クリスマス島での英米核実験をめぐるキリバス民間人被ばく者の記憶」海外学術調査フェスタ、於 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2019 年 7 月 6 日. （ポスター発表）

・「マーシャル諸島から太平洋を越えて――Kathy Jetňil-Kijiner と Robert Barclay による戦争・核／ミサイル実験・地球温暖化の表象」オーストラリア・ニュージーランド文学会春季大会、日本女子大学、2019 年 6 月 22 日. （学会口頭発表）

〈調査活動〉

・ニュージーランド（2020 年 2 月）：ニュージーランド国際芸術祭（New Zealand Festival of the Arts）の視察

・キリバス共和国ライン諸島クリスマス島（2019 年 9 月）：英米核実験と除染についてのキリバス民間人被ばく者を対象とする聞き取り調査と編集作業

［その他の活動］

〈共同研究〉

・国立民族学博物館共同研究員（研究課題：オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究、研究代表者：風間計博）

〈管理運営〉（部内）講座代表者、MLL 委員会委員長、改修工事検討ワーキング

〈学会活動〉オーストラリア・ニュージーランド文学会理事・編集委員、NZSA (New Zealand Studies Association, UK) Council member、ISLE-EA2020 (The Seventh International Symposium on Literature and Environment, East Asia) 企画実行委員

里内　克巳　(SATOUCHI Katsumi) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉比較言語文化論

〈共通教育担当科目〉英語

［研究活動］

〈研究テーマ〉19-20 世紀転換期アメリカ文学における人種・ジェンダー・階級、エスニック文学研究、自伝（life narrative）研究

〈所属学会〉日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本マーク・トウェイン協会、日本ウィリアム・フォークナー協会、京大英文学会

［研究業績］

〈論文〉

・「川で起きた悲劇――マーク・トウェインは蒸気船事故をどう描いたか」『言語文化研究』第 46 号　2020 年 3 月　pp. 25-42

〈書評・論評・紹介〉

・「分断されたアメリカにようこそ――T. ジェロニモ・ジョンソンの小説」書肆侃侃房 HP 連載「現代アメリカ文学ポップコーン大盛」第 17 回　（2019 年 5 月）

https://note.mu/kankanbou_e/n/nbd041f1fb485?magazine_key=m7a6f6213da27

・「時代を超えた続編――ロバート・クーヴァー『西部のハック』について」『マーク・トウェイン――研究と批評』第 18 号（2019 年 5 月）巻頭言　pp. 2-3.

・「スケートリンクから宇宙の果てへ――ティリー・ウォルデン『スピン』『陽光に乗って』」書肆侃侃房 HP 連載「現代アメリカ文学ポップコーン大盛」第 26 回　（2019 年 7 月）

https://note.mu/kankanbou_e/n/n83ae3e3504be?magazine_key=m7a6f6213da27

・「蚊が語るアフリカ百年の人間模様――ナムワリ・サーペル『オールド・ドリフト』」書肆侃侃房 HP 連載「現代アメリカ文学ポップコーン大盛」第 30 回（2019 年 9 月）　https://note.mu/kankanbou_e/n/n6a05701b7318

・「孤独な人のための文学――ピーター・オーナーのささやかな世界」書肆侃侃房 HP 連載「現代アメリカ文学ポップコーン大盛」第 41 回（2019 年 11 月）

https://note.com/kankanbou_e/n/n1c2775b78e69?magazine_key=m7a6f6213da27

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・シンポジウム「アメリカ文学とミシシッピ川」講師　日本ウィリアム・フォークナー協会第 22 回全国大会（駒澤大学）2019 年 9 月 14 日

・特別講演「『ハックルベリー・フィンの冒険』――研究から翻訳・改作まで」同志社大学英文学会年次大会（同志社大学今出川キャンパス）2019 年 10 月 27 日

・招待発表「「この男、ブラウン」――Mark Twain, *Letters from Hawaii* における〈もう一人の自分〉の役割」日本英文学会関西支部第 14 回大会（奈良女子大学）2019 年 12 月 8 日

〈研究助成〉

・科学研究補助金基盤研究 C「罪悪感の文学――マーク・トウェイン小説作品の自伝的基盤を探る」（2016 年 4

月～2021 年 3 月）研究課題番号 16K02490

［その他の活動］

〈管理運営〉（部内）大学院教務委員会委員長　（全学）教育課程委員会委員

〈学会活動〉日本マーク・トウェイン協会会長、日本アメリカ文学会関西支部副支部長、日本アメリカ文学会代議員、日本英文学会関西支部理事

〈社会貢献活動〉

放送大学大阪学習センター面接授業「英語初級　日常からの一歩」2019 年 6 月 1～2 日、2019 年 11 月 9～10 日

田中　智行　(TANAKA Tomoyuki) 准教授

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉中国語初級、国際コミュニケーション演習（中国語）

［研究活動］

〈研究テーマ〉中国の古典白話小説

〈所属学会〉日本中国学会、東方学会、中国人文学会

［研究業績］

〈書評・論評・紹介〉

・「翻訳と時代と」『季刊文科』第 78 号（2019 年 7 月）pp.70-71

・「2018 年度関東例会シンポジウムトークセッション　セッション①新しい日本語翻訳がもたらす白話小説受容の新時代」（シンポジウム記録）『中国古典小説研究』第 23 号（2020 年 3 月）、印刷中

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Filtration or Remolding: The Role of the Translator as an Intentional Mediator, The 4th Summit Forum of Translation Horizons and International Symposium on Chinese Culture Going Global（招待講演）, 青島大学（2019 年 10 月 26 日）

〈研究助成〉

・科研費若手研究 B「『金瓶梅詞話』新訳のための基礎研究」研究課題番号 17K13432

［その他の活動］

〈管理運営〉広報・社会貢献検討委員会委員（2019 年 10 月から）

中　直一　(NAKA Naoichi）教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語文化交流論、言語文化比較交流論特別研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）、学問への扉

［研究活動］

〈研究テーマ〉比較文学・比較文化、日独言語文化交流史、ドイツ啓蒙主義

〈所属学会〉日本比較文学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会

［研究業績］

〈論文〉

・「鷗外訳「悪因縁」と翻訳原本―訳者による削除と付加をめぐって―」大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト 2018　言語文化の比較と交流　6』2019 年 5 月（1-12 頁）

〈研究助成〉

・平成 29 年度～平成 31 年度科学研究費助成事業基盤研究（C）（一般）「異文化受容及び文化変容としての森鴎外初期翻訳作品の研究」（課題番号：17K02592）

［その他の活動］

〈学会活動〉日本比較文学会理事・事務局長、日本比較文学会関西支部幹事

西村　謙一　(NISHIMURA Kenichi) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語文化政策論 A・B

〈共通教育担当科目〉多文化コミュニケーション

［研究活動］

〈研究テーマ〉東南アジア地域研究、フィリピン現代政治研究

〈所属学会〉日本国際政治学会、日本平和学会、日本比較政治学会、アジア政経学会、日本政治学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・西村謙一「地方分権化後の自治体における政策決定過程」永井史男・岡本正明・小林盾編『東南アジアにおける地方ガバナンスの計量分析―タイ、フィリピン、インドネシアの地方エリートサーベイから』晃洋書房

・西村謙一「フィリピン地方自治における開発評議会の効果―住民参加制度は自治体のパフォーマンスにいかなる影響を与えるのか―」永井史男・岡本正明・小林盾編『東南アジアにおける地方ガバナンスの計量分析―タイ、フィリピン、インドネシアの地方エリートサーベイから』晃洋書房

・西村謙一「誰が政策過程に参加するのか？―フィリピン政治の変化の可能性―」戸田真紀子・三上貴教・勝間靖編著『改訂版　国際社会を学ぶ』晃洋書房

〈論文〉

・小林盾、岡本正明、長谷川拓也、籠谷和弘、西村謙一、永井史男「2018 年インドネシアの地方自治意識調査」『法学雑誌』65 巻 3・4 号、pp. 323-363。

〈書評・論評・紹介〉

・西村謙一「東江日出郎.『フィリピンにおける民主的地方政治権力誕生のダイナミクス』」『東南アジア研究』（京都大学）第 57 巻第 1 号、pp. 98-101。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Kenichi Nishimura, “What Improves Local Environmental Governance in the Philippines?: From Results of Philippine Local Government Survey”, 2019 Asian Association for Public Administration Annual Conference, May, 2019.

・Kenichi Nishimura, “What Affect the Performance of the Environmental Governance of the Local Governments in the Philippines?”, 27th EROPA General Assembly and Conference, September, 2019.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究（B）平成31年度～令和4年度「政策波及の政治的動態と中央地方関係―タイ、フィリピン、インドネシアの比較」（研究代表者：永井史男・大阪市立大学教授）、研究分担者
・日本貿易振興機構アジア経済研究所研究会 2018年4月～2020年3月「東南アジアにおける地方自治の新展開：自治体サーベイの分析」（主査・幹事：船津鶴代・アジア経済研究所主任研究員）、委員
［その他の活動］
〈管理運営〉男女協働推進センター会議委員、日韓共同理工系学部留学生受入れ方法検討WG
〈社会貢献活動〉兵庫県立高等学校評議員、同SGH企画推進委員会委員長

平山　晃司　(HIRAYAMA Koji) 准教授
［教育活動］
〈研究科担当科目〉比較言語文化論
〈共通教育担当科目〉ギリシャ語初級・中級、ラテン語初級・中級
［研究活動］
〈研究テーマ〉西洋古典学、古代ギリシアの宗教、古代法の宗教性に関する研究
〈所属学会〉日本西洋古典学会
［研究業績］
〈論文〉
・「カトゥッルス第61歌訳注」『言語文化共同研究プロジェクト2018　言語文化の比較と交流6』23-29頁、2019年5月
［その他の活動］
〈管理運営〉図書委員会委員長、広報・社会貢献検討委員会委員（2019年9月まで）、附属図書館総合図書館運営委員会委員

三浦　あゆみ　(MIURA Ayumi) 准教授
https://sites.google.com/site/helontheweb/
［教育活動］
〈研究科担当科目〉比較言語文化論A・B（＝学部方法論科目「言語文化比較交流論(E)・(K)」）
〈共通教育担当科目〉実践英語、専門英語基礎、総合英語（Academic Skills）、総合英語（Content-based English）
［研究活動］
〈研究テーマ〉英語史（特に古英語・中英語）、史的統語論、（史的）語彙意味論、（史的）辞書学
〈所属学会〉岩崎研究会、英語史研究会、近代英語協会、日本英文学会（関西支部）、日本中世英語英文学会（西支部）、Angus McIntosh Centre for Historical Linguistics、ISLE (International Society for the Linguistics of English)
［研究業績］
〈単著・編著書・共著〉
・Yáñez-Bouza, Nuria, Emma Moore, Linda van Bergen & Willem B. Hollmann, with the assistance of Ayumi Miura (eds.), *Categories, constructions, and change in English syntax*, Cambridge University Press. DOI: 10.1017/9781108303576

〈論文〉

・‘The incipient stages of *far be it* in Middle English’『言語文化の比較と交流 6』（大阪大学大学院言語文化研究科言語文化共同研究プロジェクト 2018）pp. 31-39.

・‘*Me liketh/lotheth* but *I loue/hate*: Impersonal/non-impersonal boundaries in Old and Middle English’ in Yáñez-Bouza, Nuria, Emma Moore, Linda van Bergen & Willem B. Hollmann, with the assistance of Ayumi Miura (eds.), *Categories, constructions, and change in English syntax* (Cambridge University Press), pp. 170-189. DOI: 10.1017/9781108303576.008

〈書評・論評・紹介〉

・‘Review of Matsuji Tajima, *Studies in Middle English* (Tokyo: Nan’un-do, 2016. 293 pp.)’『英文学研究』（日本英文学会）96, pp. 182-188.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・‘Revisiting the earliest history of the optative subjunctive *far be it* in Middle English’, 31st International Conference of the Spanish Society for Medieval English Language and Literature (SELIM31), University of Valladolid, Spain.

〈研究助成〉

・科研費若手研究「*An Alphabet of Tales* におけるラテン語原典語彙・文法の受容」（課題番号 19K13222）

［その他の活動］

〈学会活動〉日本中世英語英文学会評議員

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター面接授業講師（「英語中級：英語でスピーチ」）

ヨコタ村上　孝之　(YOKOTA-MURAKAMI Takayuki) 准教授

http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~murakami

［教育活動］

〈研究科担当科目〉比較言語文化交流論

〈共通教育担当科目〉ロシア語初級、ロシア語上級、地域文化演習（ロシア語）

〈学部教育担当科目〉文学概論

［研究活動］

〈研究テーマ〉比較文学・文化理論、セクシュアリティの系譜学的研究、現代日本コミックス・アニメ研究

〈所属学会〉日本比較文学会、日本ロシア文学会、東大比較文学研究会、日本ロシア東欧学会、日本トルストイ学会、MLA, AAS, ENCLS, ICLA

［研究業績］

〈口頭発表・講演・学会報告〉

「多和田葉子のロシア」　大阪大学比較文学シンポジウム　大阪大学待兼山会館　2019 年 11 月 7 日

“*Iaponskii perevod russkoi literatury: problema retseptsii inokul’turnoi sekcual’noi ideologii*（19 世紀ロシア文学の日本語訳――異文化の性イデオロギー受容の問題）.” フォーラム“*Russkii iazyk, literature i kul’tura v prostranstve ATR*（アジア環太平洋諸国におけるロシア語・ロシア文学・ロシア文化）.” 2019 年 10 月 16 日（基調講演）

«Россия в произведениях немецко-японской писательницы Ёко Тавада»　35 回日露極東学術シンポジウム　極東ロシア科学アカデミー歴史学・考古学・民族学研究所　2019 年 9 月 13 日

"Dostoevskian Polemics on the True Nature of Evil in *Deathnote*." XXII ICLA. July 28, 2019. "Bilingualism in Manga." EATS3. Ca' Foscari University. June 28, 2019.

［その他の活動］

〈学会活動〉国際比較文学会理事、日本ロシア文学会理事・学会賞選考委員長・大会実行委員長、日本ロシア東欧学会理事・学会賞選考委員・会誌副編集長、比較文学会関西支部幹事

【言語文化システム論講座】

小川　敦　(OGAWA Atsushi) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語文化システム論A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級I・II、ドイツ語中級、地域言語文化演習（グローバル理解）

［研究活動］

〈研究テーマ〉社会言語学、ドイツ語圏の言語政策、ルクセンブルクにおける移民の言語的人権をめぐる言語教育政策

〈所属学会〉日本独文学会、日本言語政策学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

［研究業績］

〈論文〉

・小川敦「ルクセンブルクの小学校における使用言語の多様性 ー教室で用いる言語を例にー」、大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト2018 批判的社会言語学の思潮』、15-24頁

・大澤麻里子・小川敦・境一三「イタリア・南チロルにおけるCLIL ードイツ語系学校への導入を巡ってー」、日本言語政策学会『言語政策』16号、29-52頁

・小川敦「ルクセンブルク語促進政策と公用語 ー小規模自治体広報誌の使用言語からー」、大阪大学大学院言語文化研究科『言語社会共同研究プロジェクト2019　ヨーロッパ超域研究』第1号、69-81頁

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ゲスト講演「私の外国語学習」、立命館大学教養ゼミナール（田原憲和法学部准教授担当）

〈研究助成〉

・科学研究費補助金（基盤(C)）「ルクセンブルクにおける移民の子弟への識字教育支援ー社会経済的不平等の解消のために」（2017-2020年）研究代表者

・科学研究費補助金（基盤(B)）「自治体移民言語政策と言語認識に関する国際比較研究」（2018-2021年）研究分担者（研究代表者・塚原信行（京都大学））

〈調査活動〉

・ルクセンブルクにおける複言語教育政策、識字教育の実地調査（2019年9月）

［その他の活動］

〈管理運営〉言語文化研究科ネットワーク委員、同コンテンツ委員、研究企画推進委員、国際交流委員

〈学会活動〉日本独文学会ドイツ語学ゼミナール実行委員、同データベース委員

霜鳥　慶邦　(SHIMOTORI Yoshikuni) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語文化理論研究Ａ・Ｂ

〈共通教育担当科目〉総合英語、英語選択、英語（Reading）

〈学部教育担当科目〉言語文化システム論 (E) (F)

［研究活動］

〈研究テーマ〉21 世紀英語圏文学・文化における第一次世界大戦の記憶の総合的研究、現代英語圏文学

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本ロレンス協会、The Wilfred Owen Association、The Siegfried Sassoon Fellowship

［研究業績］

〈翻訳・翻訳書〉

・共訳『D. H. ロレンス書簡集 IX 1919-1920』、松柏社、2019 年。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・口頭発表「『土曜日』の気分、『秋』の気配、「虫」の知らせ――ポスト 9/11 文学からブレグジット文学への軌跡」、科研費基盤研究（C）「現代イギリス文学における世界的内戦表象」（代表：板倉厳一郎）主催研究会「世界的内戦時代の英文学研究」、2019 年 12 月 22 日。

〈研究助成〉

・科研費基盤研究（C）「第一次世界大戦終結 100 周年のために：21 世紀英語文学と他者の記憶／記憶の他者」（2019-2023 年度）、研究代表者。

〈調査活動〉

・第一次世界大戦の記憶に関する現地調査（トルコ、2019 年 8 月 22 日～9 月 6 日）。

津田　保夫　(TSUDA Yasuo) 教授

http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tsuda/

［教育活動］

〈研究科担当科目〉文化分析方法論Ａ・Ｂ、言語文化システム論特別研究Ａ・Ｂ、研究実践基礎、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習

［研究活動］

〈研究テーマ〉１８世紀ドイツ文学、村上春樹の小説

〈所属学会〉日本独文学会、日本ヘルダー学会、日本ゲーテ協会、阪神ドイツ文学会

［研究業績］

〈論文〉

・「人間学的小説理論としてのブランケンブルク『小説試論』」（言語文化共同研究プロジェクト 2018『「文化」の解読（19）』2019 年 5 月）

〈研究助成〉

・科学研究費補助金・基盤研究（C）「18 世紀ドイツにおける人間学的転回と近代文学の成立」

［その他の活動］

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター派遣教員、全学ＦＤ委員会委員、広報・社会貢献検討委員会委員長

〈学会活動〉日本ヘルダー学会理事

林　千宏　(HAYASHI Chihiro) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉文化分析方法論Ａ・Ｂ

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級

〈学部教育担当科目〉フランス文学Ⅳ講義（フランス文学作品研究講義、フランス文学作品研究特殊講義）

［研究活動］

〈研究テーマ〉16 世紀フランス文学、書物の歴史

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語フランス文学会関西支部、日本ロンサール学会、大阪大学フランス語フランス文学研究会

［研究業績］

〈共著〉

・『実用フランス語技能検定試験 2019 年度準 2 級仏検公式ガイドブック　傾向と対策＋実施問題』

〈論文〉

・「モーリス・セーヴ『デリー』（1544）における塔の表象」、『表象と文化　XVI』（言語文化共同研究プロジェクト　2018）、p.19-30.

・「レミ・ベローの 2 つの牧歌―『牧歌』(*La Bergerie*) 1656 年版および 1572 年版を通して―」、『CORRESPONDANCE コレスポンダンス　北村卓教授・岩根久教授・和田章男教授退職記念論文集』p.33-46.

〈書評・論評・紹介〉

・連載エッセイ「仏検 4 級対策　らくらく初級マスター講座」（『ふらんす』白水社）

第 2 回「5 月、仏検まであと 2 か月！」p.22-24、4 月

第 3 回「仏検、いよいよ本番！」p.22-24、5 月

第 4 回「秋の試験までの計画をたてよう！　5 級と 4 級の相違点は？」p.22-24、6 月

第 5 回「人称代名詞について」p.22-24，7 月

第 6 回「ヴァーチャル・フランス生活を始めよう！―聞き取り問題について」p.22-24、8 月

第 7 回「仏作文への第一歩、並び替え問題」p.22-24、9 月

第 8 回「秋季試験直前！この時期にできることは？」p.22-24、10 月

第 9 回「秋季試験を振り返ろう！―時制について」p.26-28、11 月

第 10 回「仏検 3 級にむけて」p.22-24、12 月

第 11 回「仏検 3 級にむけて―動詞の活用・法について」p.22-24、1 月

最終回「仏検 3 級、そしてその次を目指すために―聞き取り問題について」p.22-24、2 月

〈研究助成〉

・科研費若手「フランス・ルネサンス文学における芸術作品の解釈・鑑賞行為の表象」（T1812342）
・科研費基盤（B）「創造的思考の基盤としての建築術」（研究代表者　桑木野幸司）研究分担者
［その他の活動］
〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会編集委員、同学会語学教育委員、日本ロンサール学会幹事、同学会編集委員、大阪大学フランス語フランス文学研究会編集委員、日本フランス語フランス文学会関西支部会実行委員
〈社会貢献活動〉文部科学省後援実用フランス語技能検定試験専門委員
〈管理運営〉大阪大学言語文化学会委員

福田　覚　(FUKUTA Satoshi) 准教授
［教育活動］
〈研究科担当科目〉言語文化理論研究A・B
〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語中級、地域言語文化演習
〈学部教育担当科目〉言語文化システム論C・D
［研究活動］
〈研究テーマ〉ドイツ語圏の詩学史・思想史・文学
〈所属学会〉日本独文学会、同京都支部会、日本18世紀学会
［研究業績］
〈論文〉
・「道徳週誌『画家談論』における想像と模倣――スイス派初期の作用詩学について」『ドイツ啓蒙主義研究16』（大阪大学大学院言語文化研究科、2019年5月31日）S.1-19
［その他の活動］
〈管理運営〉言語文化研究科紀要編集委員長

森　祐司　(MORI Yuji) 教授
［教育活動］
〈研究科担当科目〉公共文化形成論A・B、言語文化システム論特別研究A・B
〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、英語選択
［研究活動］
〈研究テーマ〉アウトドア言語文化研究
〈所属学会〉大阪大学言語文化学会
［その他の活動］
〈管理運営〉マルチリンガル教育センターカリキュラム委員長

我田　広之　(WAGATA Hiroyuki) 教授
［教育活動］

〈研究科担当科目〉公共文化形成論、言語文化システム論特別研究
〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級・中級、地域言語文化演習（ドイツ語）
［研究活動］
〈研究テーマ〉ドイツ思想史、ドイツ文化史
〈所属学会〉日本ドイツ学会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

【現代超域文化論講座】

伊勢　芳夫　(ISE Yoshio) 教授
［教育活動］
〈研究科担当科目〉現代超域文化論Ａ・B、現代超域文化論特別研究Ａ・B
〈共通教育担当科目〉英語
［研究活動］
〈研究テーマ〉１９世紀英国植民地小説と日本植民地小説、及び、イギリス、インド、そして日本の近代化の知の考古学的比較研究
〈所属学会〉日本キプリング協会、日本英文学会、日本英文学会関西支部
［研究業績］
〈単著・編著書・共著〉
・『プロジェクト 2018　Cultural Formation Studies (1)』（言語文化研究科、2019 年 5 月）
〈調査活動〉
・イギリス領インドにおける植民地政策、及びイギリス人によるインド表象の構築と、日本の近代化と植民地政策に関する資料収集・分析
［その他の活動］
〈管理運営〉言語文化研究科言語文化専攻長、教育研究評議員
〈学会活動〉日本英文学会関西支部評議員、日本キプリング協会会長

木原　善彦　(KIHARA Yoshihiko) 教授
［教育活動］
〈研究科担当科目〉現代超域文化論Ａ・B、現代超域文化論特別研究Ａ・B
〈共通教育担当科目〉総合英語
［研究活動］
〈研究テーマ〉現代英語圏文学、文体論
〈所属学会〉日本英文学会、日本アメリカ文学会、京大英文学会、
［研究業績］
〈単著〉
・『アイロニーはなぜ伝わるのか？』光文社新書（2020 年 1 月）

〈翻訳・翻訳書〉
・ウィリアム・ギャディス『カーペンターズ・ゴシック』国書刊行会（2019 年 9 月〔2000 年に本の友社から刊行された同書の全面改訳版〕）
・リチャード・パワーズ『オーバーストーリー』新潮社（2019 年 10 月）
・アリ・スミス『秋』新潮社（2020 年 3 月）
〈論評〉
・「翻訳（という）家の窓から見える風景」『群像』2019 年 9 月号 pp.221-223
〈講演〉
・第 62 回「読んでいいとも！ガイブンの輪」豊崎由美×木原善彦、梅田蔦屋書店 4th ラウンジ 2019 年 10 月 31 日
［その他の活動］
〈管理運営〉全学人権問題委員会委員、現代超域文化論講座代表
〈学会活動〉日本アメリカ文学会関西支部編集幹事、京大英文学会アルビオン賞選考委員会委員長

北井　聡子（KITAI Satoko）講師
［教育活動］
〈共通教育担当科目〉ロシア語
［研究活動］
〈研究テーマ〉初期ソ連におけるセクシュアリティとジェンダー表象
〈所属学会〉日本ロシア文学会
［研究業績］
〈単著・編著書・共著〉
・分担執筆　担当項目「ソフィア・コヴァレフスカヤ」「女性解放思想」沼野充義、池田嘉郎他編『ロシア文化事典』丸善出版（2019 年 10 月）
〈論文〉
・「親族制度のその先へ　初期ソ連のヒロイン達の冒険」『ゲンロンβ38』（オンライン雑誌）（2019 年 6 月）
〈書評・論評・紹介〉
・報告要旨「1920 年代ソ連における「新しい女」・性・家族」日本ロシア文学会主催　若手ワークショップ報告論集『ポスト革命期ロシア文化のまなざし―革命から大テロルまで』5−7 頁。
〈口頭発表・講演・学会報告〉
・「『白痴』における〈斬首の光景〉」ロシア文学会関西支部春季研究発表会　2019 年 6 月 15 日
・“Search for the Alternative to the Traditional Families: from the late 19th century to the early 20th century.” The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies. Tokyo: Japan. 2019 年 6 月 29-30 日
・「フョードル・グラトコフ『セメント』」社会主義リアリズム文学研究会　2019 年 10 月 5 日
［その他の活動］
〈学会活動〉日本ロシア文学会学会賞（論文）受賞、2020 年度日本ロシア文学会大会実行委員

木村　茂雄　(KIMURA Shigeo) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉現代超域文化論、現代超域文化論特別研究

〈共通教育担当科目〉英語

〈学部教育担当科目〉現代超域文化論（大学院共通科目）

［研究活動］

〈研究テーマ〉英語圏文学、ポストコロニアル理論を中心とする文化理論

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部

［研究業績］

〈書評・論評・紹介〉

・「はじめに」，『言語文化共同研究プロジェクト 2018　Cultural Formation Studies　I』大阪大学大学院言語文化研究科，2019 年 5 月，pp. 1-3.

〈講演〉

・「言語文化の「北」と「南」～ポストコロニアルの理論と文学～」（令和元年度大阪大学適塾記念講演会）大阪大学中之島センター，2019 年 12 月 9 日

［その他の活動］

〈管理運営〉大阪大学マルチリンガル教育センター長

〈学会活動〉『英文学研究』（日本英文学会）編集委員会顧問

中村　綾乃　(NAKAMURA Ayano)　准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉現代超域文化論

〈共通教育担当科目〉「学問への扉」（ヨーロッパ近現代史を読み解く）、「ドイツ語初級」、「ドイツ語中級」

［研究活動］

〈研究テーマ〉ドイツ近現代史、ドイツ東アジア関係史、植民地研究

〈所属学会〉日本西洋史学会、日本ドイツ学会、ドイツ現代史学会、阪神ドイツ文学会、日本独文学会ドイツ語教育部会

［研究業績］

〈論文〉

・中村綾乃「ゾルフと第一次世界大戦―城内平和と懐疑、植民地の回復―」大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト 2018　言語文化の比較と交流 6』2019 年 5 月（13-22 頁）

〈研究助成〉

・研究代表者　科学研究費補助金（若手 B）「ドイツ帝国の南洋統治に関する研究」

［その他の活動］

〈管理運営〉

・ハラスメント相談員

宮崎　麻子　(MIYAZAKI Asako) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉現代超域文化論 A・B

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

〈学部教育担当科目〉文化概論 A（外国語学部）

［研究活動］

〈研究テーマ〉ポスト東ドイツ文学・文化、文学における想起、姉妹をめぐる比較文学

〈所属学会〉日本ドイツ協会、日本独文学会、阪神ドイツ文学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・Susi K. Frank, Kjetil A. Jakobsen (Ed.): Arctic Archives. Ice, Memory, and Entropy, Bielefeld: transcript 2019.　(担当: 分担執筆: Miyazaki, Asako: Myth of Preservation: Images of Ice, Snow and Glaciers as Metaphors for Memory in Post-Holocaust Literature and Art (Sebald, Celan, Bałka), pp. 231-252.)

〈論文〉

・宮崎麻子「四人姉妹と五人姉妹を描き分ける近代文学の物語 ――『高慢と偏見』『若草物語』『細雪』における姉妹たちの多様性の限界」、「文化」の解読(19)：文化とメディア 、2019 年、21-36 頁。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Miyazaki, Asako: Schwesternfiguren in der Post-DDR-Literatur um 2010. Die internationale Tagung „Systemwechsel, literarisch. Ost- und Westdeutschland um 1989 im internationalen Vergleich“ im Literaturmuseum Marbach, 2019 年 07 月.

〈研究助成〉

・科研費: 若手研究（B）「姉妹をめぐる文学の言説――ドイツ語と日本語の文学を中心に」2019 年 4 月-2023 年 3 月

・DAAD ドイツ学術交流会「元奨学生の再招待」2019 年 5 月- 2019 年 8 月

山本　佳樹　(YAMAMOTO Yoshiki) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語文化メディア論、現代超域文化論特別研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）、学問への扉

〈学部教育担当科目〉現代超域文化論

［研究活動］

〈研究テーマ〉ドイツ映画、ドイツ文学

〈所属学会〉日本映画学会、日本映像学会、表象文化論学会、日本独文学会、日本オーストリア文学会、阪神ドイツ文学会、大阪大学ドイツ文学会、大阪大学言語文化学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉
・加藤幹郎（監）／塚田幸光（編）『映画とジェンダー／エスニシティ』（分担執筆：第5章：山本佳樹「ドイツ＝トルコ映画における女性像の変遷」）ミネルヴァ書房、2019年5月
〈論文〉
・山本佳樹「東ドイツ映画における建築物のイメージ―『殺人者は我々の中にいる』から『建築家たち』まで」、『「文化」の解読（19）―文化とメディア』 言語文化共同研究プロジェクト 2018（大阪大学大学院言語文化研究科）、pp. 59-68、2019年5月
〈研究助成〉
・ドイツ語圏における文学作品の映画化についての映画社会学的研究（研究代表者）（科学研究補助金・基盤研究C、研究代表者、2016年度～2019年度）
［その他の活動］
〈管理運営〉ファカルティ・ディベロップメント委員会委員、現代超域文化論講座講座主任、マルチリンガル教育センターカリキュラム委員
〈学会活動〉日本映画学会顧問、日本独文学会支部選出理事、阪神ドイツ文学会幹事

【言語コミュニケーション論講座】

植田　晃次　(UEDA Kozi) 准教授
［教育活動］
〈研究科担当科目〉社会言語学研究A・B（副題：移民をめぐる言語政策あるいは言語政策研究の諸問題）
〈共通教育担当科目〉朝鮮語初級I・II、朝鮮語中級、国際コミュニケ―ション演習（朝鮮語）、地域言語文化演習（朝鮮語）
［研究活動］
〈研究テーマ〉日本における朝鮮語教育史、在外朝鮮民族の言語をめぐる諸問題、朝鮮語に対する言語政策
〈所属学会〉朝鮮学会、多言語社会研究会、朝鮮史研究会、韓国社会言語学会
［研究業績］
〈論文〉
・「（研究ノート）朝鮮文字（＝ハングル）による日本語表記規範小攷－多言語表示と規範の不備の視点から－」『批判的社会言語学の思潮（言語文化共同研究プロジェクト2018）』大阪大学大学院言語文化研究科、2019.5、37-48頁
〈口頭発表・講演・学会報告〉
・「日本近代朝鮮語教育史の視点から見た松岡馨と朝鮮語－人物史と著書を通して－」（第6回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム、2019年8月21日、於延辺大学東部教学楼第7会場（言語3））
・「元参謀本部朝鮮国語学生徒・新庄順貞と朝鮮語 －日本近代朝鮮語教育史の視点から－」（第70回朝鮮学会大会、2019年10月6日、於天理大学2号棟23A）

〈研究助成〉
・2018～2020 年度（予定）：科学研究費補助金基盤研究（C）「「旧朝鮮語学」の視点から見た日本近代朝鮮語教育史の総合的研究」（研究課題番号：18K00782、研究代表者）
・2017～2019 年度：科学研究費補助金基盤研究（C）「漢字文化を基礎とした中期朝鮮語文法および語彙表の開発」（研究課題番号：17K02962、研究分担者）
・2019～2021 年度（予定）：科学研究費補助金基盤研究（B）「異文化理解における外国語教科書の役割－中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として－」（研究課題番号：19H01282、研究分担者）
［その他の活動］
〈管理運営〉
・言語文化研究科：（学内）豊中地区事業場衛生管理者、（部内）朝鮮語部会主任、部会主任会議・財務会計・マルチメディア外国語教育・紀要編集・安全衛生・研究企画推進・国際交流の各委員会委員（2019 年度）、広報・社会貢献検討委員会委員（2018 年度後期～2019 年度前期）、言語文化Ｂ棟改修工事検討ワーキングメンバー（2018 年 1 月～）
・マルチリンガル教育センター：兼任教員、カリキュラム・カリキュラム小委員会の各委員会委員（2019 年度）
〈学会活動〉東アジア日本学研究学会理事（2018 年 10 月～）

榎本　剛士　(ENOMOTO Takeshi) 准教授
［教育活動］
〈研究科担当科目〉言語コミュニケーション論Ａ・Ｂ
〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based English)、総合英語 (Liberal Arts & Sciences)、英語 (Reading)、学問への扉（コミュニケーションとしての学問）
［研究活動］
〈研究テーマ〉語用論、記号論、教育言語人類学、実践論・出来事論としての言語研究、言語イデオロギーを含むメタ・コミュニケーション研究、言語人類学の枠組みを援用した近現代日本の英語教育研究
〈所属学会〉社会言語科学会、日本英語教育史学会、International Pragmatics Association、American Anthropological Association、American Association for Applied Linguistics
［研究業績］
〈単著〉
・『学校英語教育のコミュニケーション論：「教室で英語を学ぶ」ことの教育言語人類学試論』、大阪大学出版会、2019 年 9 月
〈論文〉
・「授業の詩、学びの詩」『愛知大学人文社会学研究所シンポジウム報告書：ことばの詩 生活の詩 社会の詩―日常の中のポエティクス―』、25-39 頁、2020 年 3 月
・「コミュニケーションについてのコミュニケーションに目を向ける：『見方・考え方』そして『感じ方』に気づく一視点」綾部保志（編）『小学校英語への専門的アプローチ：ことばの世界を拓く』（253-265 頁）、春風社、2019 年 12 月

・「英語教育と目的論の再接続について：『コミュニケーション重視』の流れの中での試論」『自律した学習者を育てる英語教育の探求⑩：小中高大を接続することばの教育として』研究報告 No. 94、139-148 頁、2019 年 7 月

・「ポリティックスの視点から考える教室のフィールドワーク：再帰的考察」『相互行為研究⑤：談話とポリティックス 言語文化共同研究プロジェクト 2018』、1-10 頁、2019 年 5 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「『大学入学共通テスト』への英語民間試験の導入をどう考えるか」第 4 回大阪大学豊中地区研究交流会、2019 年 12 月

・「生徒とネイティブ・スピーカーの詩的な出会い」愛知大学人文社会学研究所シンポジウム『ことばの詩、生活の詩、社会の詩―日常の中のポエティックス』、2019 年 6 月

・「語用、メタ語用、クオリア（仮）」コミュニケーションの自然誌研究会、2019 年 5 月

［その他の活動］

〈管理運営〉大学院教務委員会委員、ハラスメント部局相談員

〈学会活動〉日本英語教育史学会理事・学会紀要編集委員、社会言語科学会企画委員会委員

〈社会貢献活動〉公益財団法人中央教育研究所「自律した学習者を育てる言語教育の探求：小中高大を接続することばの教育として」研究プロジェクトメンバー

王　周明(WANG Zhouming) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語運用理論研究Ａ・Ｂ

〈共通教育担当科目〉中国語初級、中国語中級、国際コミュニケーション演習（中国語）

［研究活動］

〈研究テーマ〉中国語歴史文法、方言文法

〈所属学会〉日本中国語学会、日本中国近世語学会、中日理論言語学研究会

［研究業績］

〈単著〉

・「《北京官話伊蘇普喻言》成书的多文化因素」（『言語文化共同研究プロジェクト 2018・時空と認知の言語学 VI』pp. 11-20、大阪大学大学院言語文化研究科、2019 年 5 月）

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究Ｂ（課題番号 A19H012820）「異文化理解における外国語教科書の役割―中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として―」（研究代表者、2019～2021 年度）

〈調査活動〉

・「異文化理解における外国語教科書の役割」に関する資料閲覧・収集（2019 年 9 月台北）

［その他の活動］

〈管理運営〉言語文化研究科：中国語部会主任・財務会計委員・キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員

〈学会活動〉日本中国語学会全国大会運営委員、学術誌（中国語学、言語文化）の査読

〈社会貢献活動〉京都大学非常勤講師、放送大学面接授業講師

大前　智美　(OMAE Tomomi) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語技術研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級Ⅰ、ドイツ語初級Ⅱ

［研究活動］

〈研究テーマ〉外国語教育、e-Learning、アクティブラーニング、ICT 活用

〈所属学会〉日本独文学会ドイツ語教育部会、日本ドイツ語情報処理学会、e-Learning 教育学会、外国語メディア教育学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

〈論文〉

・渡邉ゆきこ，大前智美，「中国語音韻検索システムの開発と 音声認識機能を使った効率的発音学習の試み」，『2019 PC Conference 論文集』，p.35~38，2019 年 8 月発行

・Watanabe Yukiko, Omae Tomomi, Odo Satoru, Investigating the Effect of Chinese Pronunciation Teaching Materials Using Speech Recognition and Synthesis Functions, Journal of Technology and Chinese Language Teaching, 10(2) 102-124, 2019 年 12 月

〈翻訳・翻訳書〉

〈書評・論評・紹介〉

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・大前智美，北岡千夏，「ロイロノート・スクールを使った授業」，外国語教育メディア学会関西支部 2019 春季研究大会, 2019 年 5 月

・大前智美，渡邉ゆきこ，「多言語発音練習ソフト ST lab のワークショップ」，FLExICT Expo 2019，2020 年 2 月

〈研究助成〉

・基盤研究 C，「小中高大連携を見据えた外国語教育と ICT の接点を探る研究ならびにアーカイブの開発」，研究分担者，2017 年～2019 年

〈調査活動〉

［その他の活動］

〈管理運営〉

〈学会活動〉e-Learning 教育学会理事、事務局、会計、学会誌編集委員

〈社会貢献活動〉市民講座 2019 複言語学習のススメ

佐藤　彰 (SATOH Akira) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉社会言語学研究A・B

〈共通教育担当科目〉英語

［研究活動］

〈研究テーマ〉談話分析、社会言語学、語用論

〈所属学会〉International Pragmatics Association、社会言語科学会、言語文化学会

［研究業績］

〈論文〉

・「日本の外から見た日本 - 談話研究の視点 - 」『社会言語科学』, 19 巻 2 号, 81-86. （岡田悠佑氏、韓娥凛氏、オユナー・ノミン氏、秦かおり氏、岡本能里子氏と共著）2017 年 3 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・"The post-truth age has come to Japan: Critical discourse analysis of the TV reportage of the anti-U.S. base protesters in Okinawa". 16th International Pragmatics Conference, Hong Kong Polytechnic University, 2019 年 6 月 10 日.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究（C）（研究代表者：佐藤彰　研究課題：災害報道の談話分析的研究）

［その他の活動］

〈管理運営〉英語部会会議前期議長（英語部会）、学生支援委員会（言語コミュニケーション論講座）.

〈学会活動〉メディアとことば研究会役員、言語文化学会監事.

瀧田　恵巳　(TAKITA Emi) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語コミュニケーション論、言語運用理論研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、国際教養科目

［研究活動］

〈研究テーマ〉ダイクシス研究、方向表現を中心とする意味論

〈所属学会〉日本独文学会、九州大学独文学会、西日本独文学会

［研究業績］

〈論文〉

・「『デュランデ城』における風景描写のダイクシス（その 2）」『言語文化共同研究プロジェクト 2018・ 時空と認知の言語学Ⅷ』pp. 21-30.　大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科. 2019 年 5 月

［その他の活動］

〈管理運営〉言語コミュニケーション論講座講座代表者, ドイツ語部会主任, 国際交流委員会委員

秦　かおり　(HATA Kaori) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉社会言語学研究A、言語コミュニケーション論特別研究A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語(Academic Skills)、英語(Reading)、専門英語基礎

［研究活動］

〈研究テーマ〉社会言語学、相互行為論、コミュニケーション学、ナラティブ研究。特に、排除、差別問題。移民としての在英邦人女性を取り巻く社会的文化的環境の調査

〈所属学会〉社会言語科学会、国際語用論学会、日本英語学会、日本社会学会、日本語用論学会、日本マス・コミュニケーション学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・『動的語用論の構築へ向けて　第１巻』（田中廣明、吉田悦子、山口征孝氏と共編）開拓社 2019 年 11 月

〈論文〉

・「多人数インタラクション場面における共通基盤化と動的語用論 ―折り紙作成場面を事例に―」田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝（編）『動的語用論の構築へ向けて　第１巻』開拓社 pp. 47-66. 2019 年 11 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・“How to instruct the way to see a phenomenon: A multimodal analysis of family interaction”、16th International Pragmatics Conference、於: The Hong Kong Polytechnic University、香港、2019 年 06 月 10 日.

・“Towards finding ways to co-exist with migrants and minorities in Japan: Empirically based approaches to multiculturalism”、16th International Pragmatics Conference、於: The Hong Kong Polytechnic University、香港、2019 年 06 月 10 日.

・「在英邦人女性調査にみる 排除と共生の可能性」国際ラウンドテーブル　異文化理解と多文化共生、於：龍谷大学、2019 年 6 月 16 日.

・“Confronting the EU referendum as immigrants: From longitudinal interviews with Japanese women living in the UK”、Closed Workshop: 30 Years of Talk: Research into Discourse Across Lifespan、於：メルボルン大学、メルボルン、オーストラリア、2019 年 7 月 23 日.

・“Confronting the EU referendum as immigrants: A case study of interview narratives of Japanese women living in London”、LDCDL Seminar、於：King’s College London、ロンドン、英国、2019 年 11 月 28 日.

〈研究助成〉

・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立国語研究所 「領域指定型」共同研究プロジェクト、平成 28 年～令和 1 年度「会話における創発的参与構造の解明と類型化」研究分担者

・龍谷大学国際文化研究所、平成 29～令和 2 年度「異文化理解と多文化共生―人口減少社会を見据えたミクロ・マクロからのアプローチ」プロジェクト、共同研究者

〈調査活動〉

・海外インタビュー調査、補習授業校、日本語勉強互助会「どんぐり」参与観察調査（2019 年 10 月 8 日～12 月 28 日、2020 年 1 月 18 日～3 月 21 日）.

［その他の活動］

〈管理運営〉カリキュラム検討ワーキング・グループ

〈学会活動〉日本語用論学会広報委員、社会言語科学会企画委員会副委員長、社会言語科学会理事、メディアとことば研究会役員. “Towards finding ways to co-exist with migrants and minorities in Japan: Empirically based approaches to multiculturalism”、16th International Pragmatics Conference、於: The Hong Kong Polytechnic University、香港、2019 年

06月10日.シンポジウム企画(単独)、"Pragmatics of Emergent Participation Framework: Multimodal Analysis of Everyday Life Interaction"、 16th International Pragmatics Conference、於: The Hong Kong Polytechnic University、香港、2019年06月10日.シンポジウム企画（遠藤智子氏と共に）.

村岡　貴子　(MURAOKA Takako) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語技術研究、言語コミュニケーション論

〈共通教育担当科目〉専門日本語

［研究活動］

〈研究テーマ〉日本語教育学、専門日本語教育研究、アカデミック・ライティング教育研究

〈所属学会〉日本語教育学会、専門日本語教育学会、社会言語科学会、異文化間教育学会、日本文体論学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・村岡貴子（2020a）「論文作成における文献引用法の改善　学習者は先行研究の引用法をどのように学ぶのか」石黒圭・烏日哲編著『どうすれば論文・レポートが書けるようになるのか―学習者から学ぶピア・レスポンス授業の科学』（第5章）ココ出版、pp.73-96

・村岡貴子（2020b）「論文執筆を目的とした日本語学習者の読解」野田尚史編『日本語学習者の読解過程』（第13章）ココ出版、pp.245-263

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・村岡貴子・鎌田美千子・中島祥子・石黒圭・堀一成（2019）「大学における日本語ライティング教育の課題と可能性 –言語スキル養成からライティング支援人材の育成まで–」パネルセッション、2019 年度日本語教育学会春季大会、2019.5.25、つくば国際会議場

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(B)　課題番号：19H01269　令和元年度～令和 4 年度「日本語読解・ライティングの方法に影響する母語・母文化の教育的背景要因に関する研究」研究代表者

・科学研究費補助金基盤研究(B)　課題番号：16H03434　平成 28 年度～平成 31 年度「非漢字圏アジア留学生のための日本語教育と理工系専門教育の高大接続を目指す協働研究」研究分担者

・科学研究費補助金基盤研究(C)　課題番号：17K02878　平成 29 年度～平成 31 年度「アカデミック・ライティング技術の習得を目指したピア・レスポンスの実証的研究」研究分担者

・国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」プロジェクト構成員

［その他の活動］

〈管理運営〉教育課程委員会委員、ASEAN キャンパス運営 WG メンバー、国際教育交流センター副センター長、グローバル教育運営委員会オブザーバー、人文系教育研究組織構想検討 WG 第三部会オブザーバー

〈学会活動〉専門日本語教育学会代表幹事、専門日本語教育学会編集幹事・副編集長、日本語教育学会審査・運営協力員

山下　仁　(YAMASHITA Hitoshi) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉社会言語学研究、言語コミュニケーション論特別研究

〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）

［研究活動］

〈研究テーマ〉社会言語学、ドイツ語学

〈所属学会〉日本独文学会、阪神ドイツ文学会、文法理論研究会、多言語社会研究会、多言語化現象研究会、IVG（国際ゲルマニスト会議）、GAL（応用言語学会）

［研究業績］

〈論文〉

・„Lexikologie im postfaktischen Zeitalter：am Beispiel der deutschen und japanischen Wortschätze”『言語文化共同研究プロジェクト 2018：批判的社会言語学の思潮』(大阪大学大学院言語文化研究科編) 、 査読無、25-35 ページ、2018 年

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・„Die Invektive verschleiernde Funktion der Sprache “（ 2019 年 4 月 2 日、早稲田大学で開催された国際学会"Invectivity. A New Paradigm in Cultural Studies"にてドイツ語で口頭発表）

・„Kontrastive Untersuchung der nicht-kooperativen Kommunikation“（2019 年 8 月 27 日、札幌の北海学園大学にて開催されたアジアゲルマニスト会議にてドイツ語で口頭発表）

・「社会言語学から見た敬語の考察」（2019 年 9 月 17 日、中国西安外国語大学にて日本語で講演、招待講演）

・„Die verschleiernde Funktion der Sprache “（2020 年 1 月 31 日、韓国ソウル大学にてドイツ語で口頭発表、招待講演）

・„Probleme der kontrastiven Soziolinguistik Deutsch und Japanisch vom Gesichtspunkt der Höflichkeitsforschung “　（2020 年 2 月 2 日、ソクチョ韓国ドイツ言語学会にてドイツ語で口頭発表、招待講演）

〈研究助成〉

・「多言語・多文化社会の言説におけるポライトネスの日独対照社会言語学的考察」科学研究費補助金基盤研究 C

［その他の活動］

〈管理運営〉CALL システムワーキング委員、広報社会貢献委員会委員長（2019 年 10 月より）

〈学会活動〉多言語社会研究会編集委員、多言語化現象運営委員

義永　美央子　(YOSHINAGA Mioko) 教授

http://mioko-yoshinaga.jpn.org

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語コミュニケーション論 A・B、言語コミュニケーション論特別研究

〈共通教育担当科目〉専門日本語

［研究活動］

〈研究テーマ〉日本語教育学、応用言語学

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、言語文化教育研究学会、異文化間教育学会、第二言語習得研究会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・義永美央子・嶋津百代・櫻井千穂（2019）『ことばで社会をつなぐ仕事―日本語教育者のキャリアガイド―』凡人社

〈論文〉

・義永美央子（2019）「第二言語学習者が教室で『わたし』を語るとき―日本で学ぶ大学院研究留学生の事例から―」佐藤慎司編『コミュニケーションとは何か―ポスト・コミュニカティブ・アプローチ』くろしお出版. pp.100-127.

・義永美央子・角南北斗・瀬井陽子・難波康治（2020）「日本語の自律学習を支援するオンラインプラットフォーム『OU 日本語ひろば』の開発について」『大阪大学国際教育交流センター研究論集　多文化社会と留学生交流』24 号、pp. 27-34、2020 年 3 月、査読無

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・義永美央子（2020）「中堅日本語教師研修における越境的対話と越境知」（北出慶子・香川秀太・山口洋典とのパネルセッション「越境による『第三の知』創造を目指した実践―交差と衝突による変容から言語文化教育の展望を考える―」における話題提供）言語文化教育研究学会第 6 回年次大会、査読有（コロナウイルス感染拡大により大会は中止となったが、予稿集掲載を以て発表とみなすことが決定された）

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号 : 19K00708　平成 31 年度～令和 4 年度「大学における日本語自律学習支援者養成プログラムの開発」、研究代表者

［その他の活動］

〈管理運営〉人権問題委員会委員（全学）、ハラスメント相談室専門アドバイザー（全学）、学生生活委員会委員（全学・2019 年 8 月まで）、学生支援小委員会委員（全学・2019 年 8 月まで）、国際教育交流センター教務委員長、国際教育交流センター人権・ハラスメント対策委員会委員長

〈学会活動〉日本語教育学会大会委員（2019 年 6 月まで）、日本語教育学会常任理事（2019 年 7 月から）、社会言語科学会編集委員、第二言語習得研究会査読委員（2019 年 12 月まで）、第二言語習得研究会研究大会委員（2020 年 1 月から）、言語文化教育研究学会査読協力者

〈社会貢献活動〉文化庁「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」（事業区分 :（2）日本語教育人材の研修カリキュラム開発④日本語教師【中堅】に関する研修）「日本語教育学会の人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修事業」（JCN 研修）専門委員

渡邊　伸治　(WATANABE Shinji) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語運用理論研究Ａ・Ｂ、言語コミュニケーション論特別研究Ａ・Ｂ
〈共通教育担当科目〉ドイツ語初級、ドイツ語中級、地域言語文化演習（ドイツ語）
［研究活動］
〈研究テーマ〉ダイクシス，視点
〈所属学会〉日本独文学会、ドイツ文法理論研究会、京都ドイツ語学研究会
［その他の活動］
〈管理運営〉図書館委員会委員、総合図書館運営委員、言語文化学会委員

【言語文教育論講座】

今尾　康裕　(IMAO Yasuhiro) 准教授

https://sites.google.com/site/casualconcj/

［教育活動］
〈研究科担当科目〉応用言語学研究
〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based), 総合英語 (Academic Skills)
〈学部教育担当科目〉英語学演習ｖ
［研究活動］
〈研究テーマ〉言語テスト, 英語教育, 英語アカデミックライティング, テキスト分析ツール開発
〈所属学会〉日本言語テスト学会, 全国英語教育学会, 中部地区英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 英語コーパス学会
［研究業績］
〈論文〉
・「日本の大学生英語学習者によるエッセイでの接続表現を探る：日本語エッセイ・英語母語話者によるエッセイと比較して」（大阪大学大学院言語文化共同研究プロジェクト 2018），pp. 5-23
・「依存文法によるタグ付けを利用した名詞修飾の比較」（統計数理研究所共同研究リポート 438），pp. 1-22.
〈口頭発表・講演・学会報告〉
・Let's look at corpus data with CasualConc! (Poster Presentation）*International Corpus Linguistics Conference*, Cardiff University, Wales, UK, July 22, 2019.
・「Grammar-based searches on CasualConc」外国語教育メディア学会（LET）関西支部メソドロジー研究部会 2019 年度第 3 回研究会, ビジネスセンター Keep Front, 2020 年 2 月 15 日
・「1 日で CasualConc を極める新春ワークショップ」, ワークショップ, 英語コーパス学会 ESP 研究会
・「名詞修飾に関する一考察」，言語と統計 2019，統計数理研究所. 2019 年 3 月 20 日.
〈研究助成〉
・ディケンズ・レキシコンとデジタル・ヒューマニティーズによる英文学研究基盤創成（科学研究補助金・基盤研究 B,研究分担者, 2019–2022 年度）
〈コンピューターアプリケーション開発〉

（開発継続）

・CasualConc 2.1.2（テキスト分析ツール）

・CasualTranscriber 2.6.3 （文字おこし補助ツール）

・CasualTagger 1.1（テキストタグ付け補助ツール）

・CasualTextractor 1.0.3（テキスト処理ツール）

・CasualPConc 1.0（パラレルコーパス分析ツール）

・CasualTreeTagger 1.0（TreeTagger GUI フロントエンド）

［その他の活動］

〈学会活動〉日本言語テスト学会 Web 公開委員委員長, Asian Association for Language Assessment, コミュニケーション担当理事

〈社会貢献活動〉

文部科学省委託事業「中学校・高等学校における英語教育の根本的改善のための指導方法等に関する実証研究」データ分析外部専門家委員

岩居　弘樹　(IWAI Hiroki) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉応用マルチメディア論，言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習（ドイツ語），ドイツ語初級 I，II,

［研究活動］

〈研究テーマ〉ICT を活用した外国語教授法，教育工学

〈所属学会〉日本教育工学会，外国語教育メディア学会，日本デジタル教科書学会，日本独文学会，日本独文学会ドイツ語教育部会，教育システム情報学会

［研究業績］

〈論文〉

・岩居弘樹・広瀬 一弥・藤木 謙壮「小学校における『世界の言葉プロジェクト』の試みについて - ICT 支援遠隔複言語学習の一例 - 」, CIEC 春季カンファレンス論文集，Vol.11，pp.27–34，2020 年 3 月 21 日.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・岩居弘樹，「ICT を活用した双方向で能動的な授業の実現」，名古屋工業大学 FD，2019 年 12 月 11 日，名古屋工業大学，名古屋工業大学工学教育総合センター.

・岩居弘樹，「ICT を活用した能動的外国語学習」，神戸大学・第 29 回外国語教育セミナー，2019 年 12 月 6 日，神戸大学，神戸大学大学教育推進機構.

・岩居弘樹，「複言語学習のすすめ」（ワークショップ），愛媛大学ジュニアドクター育成塾，2019 年 10 月 6 日，愛媛大学，愛媛大学ジュニアドクター育成塾.

・岩居弘樹,「つべこべ言わずにやってみるといろんなことがあるわけで😅」, 教育 IT ソリューション EXPO 2019 関西・専門セミナー講演，2019 年 9 月 27 日，インテックス大阪，EDIX 関西.

・岩居弘樹，「ロイロノートスクールで変わる授業を体験しよう」，外国語教員のための ICT 無料ワークショッ

プ，2019 年 8 月 31 日，OIT 梅田タワー，e-learning 教育学会.
・岩居弘樹，「複言語学習のすすめ」（ワークショップ），日本私立小学校連合会全国夏季研修会，2019 年 8 月 20 日，JICA 横浜，日本私立小学校連合会外国語部会.
・岩居弘樹，「授業でビデオを活用する方法」，追手門学院大学 FD スキルアップセミナー，2019 年 8 月 9 日，追手門学院大学，追手門学院大学.
・岩居弘樹，「ICT を活用した能動的授業の試みについて」，大阪府立大学高等教育推進機構 FD セミナー，2019 年 8 月 1 日，大阪府立大学，大阪府立大学高等教育推進機構.
・岩居弘樹，「再び！とりあえずやってみる」，教育 IT ソリューション EXPO 2019 特別講演，2019 年 6 月 21 日，東京ビッグサイト，EDIX.
〈研究助成〉
・科研費基盤研究(B)，音声認識とビデオ撮影による自己省察を基礎とした ICT 支援複言語学習モデルの研究，研究代表者.
・科研費基盤研究(C)，小中高大連携を見据えた外国語教育と ICT の接点を探る研究ならびにアーカイブの開発，研究分担者.
〈調査活動〉
［その他の活動］

大谷　晋也（OTANI Shinya）准教授
［教育活動］
〈研究科担当科目〉言語文化教育論 A・B
〈共通教育担当科目〉総合日本語、専門日本語、多文化コミュニケーション（日本語）、学問への扉（多文化コミュニケーションセミナー）、International Communication Seminar (Japanese)
〈学部教育担当科目〉言語文化教育論（F）・（G）
［研究活動］
〈研究テーマ〉多文化・グローバル教育としての異言語（日本語）教育、言語教育政策、外国人医療支援に関する諸問題、日本古典文学データベース
〈所属学会〉日本語教育学会
［研究業績］
〈翻刻・校訂〉
・平安文学ライブラリー『枕草子（三巻本）』（日本文学 Web 図書館（古典ライブラリー））2019. 4（共編）
〈口頭発表・講演・学会報告〉
・「異文化「理解」と共生のために」（東洋大学附属姫路高等学校高大連携特別講座）2019. 7
・「日本語学校の授業観察における非常勤日本語教師の関わり方 ―専任日本語教師の関わり方との比較から―」（日本教育工学会秋季全国大会（第 35 回））2019. 9（共同発表）
・「「すべての人にやさしいまち・箕面の創造」に向けた人権尊重のまちづくりとは」（第 34 回みのお市民人権フォーラム第一分科会コーディネーター）2019. 12

〈研究助成〉
・「海外における平安文学及び多言語翻訳に関する研究」科学研究費補助金 基盤研究（A）研究分担者
［その他の活動］
〈管理運営〉国際教育交流センター教授会構成員（専任）、マルチリンガル教育センターカリキュラム委員会委員、情報化推進会議委員、ODINS 運用部会委員、情報セキュリティ連絡会委員
〈社会貢献活動〉医療事務連絡会（箕面市等）委員、吹田市国際交流協会文化庁事業運営委員、みのお外国人医療サポートネット運営委員、みのお TAMASA（地域外国人日本語支援活動）顧問

岡田　悠佑　(OKADA Yusuke) 准教授
https://sites.google.com/site/liloarise2690/
https://osaka-u.academia.edu/YusukeOkada
教育活動］
研究科担当科目〉応用言語学研究 A, B
共通教育担当科目〉総合英語（プロジェクト発信型）
研究活動］
研究テーマ〉エスノメソドロジー的会話分析、第二言語語用論
所属学会〉American Association for Applied Linguistics, 大学英語教育学会、社会言語科学会
研究業績］
論文〉
・岡田悠佑 (2019). 「話し手の語りに対して聞き手が言いうる発話」を話し手が演じること―英語授業での教師による描出発話― 言語文化共同研究プロジェクト, 応用会話分析研究―制度的会話におけるカテゴリー化と連鎖構造―, 11-20（査読無）
〈口頭発表・講演・学会報告〉
・Okada, Y. (2019, July). *Managing learning opportunity and motivation in interaction: Teacher's sequential practice in post-performance feedback in EFL classrooms*. FLEAT VII. Tokyo: Waseda University.
・Okada, Y. (2019, November). 「聞いている」以上を引き出すために―学術目的のための英語授業における教師のフィードバックの会話分析― 第２回 JAAL in JACET 学術交流集会. 東京: 高千穂大学
・岡田悠佑 (2019, 10 月). 「会話分析」入門 − LINE の既読無視はなぜ居心地が悪いのか 立命館大学大学院言語教育情報研究科科目「日本語を対象とした語用論と談話分析」内ゲスト講義 京都: 立命館大学
・岡田悠佑 (2019, 11 月). 大阪大学の英語教育改革と「表現力」.令和元年度国立七大学外国語教育連絡協議会合同シンポジウム. 東京: 東京大学
・岡田悠佑 (2020, 2 月). 国立総合大学におけるプロジェクト発信型英語の可能性. 2019 PEP Conference. 大阪: 立命館大学（招待講演）
〈研究助成〉
・科研費若手研究「学術目的のための英語コミュニケーション活動への口頭フィードバック手法のモデル化」
［その他の活動］

〈管理運営〉マルチリンガル教育センター専任教員（学内派遣）、文学研究科・言語文化研究科統合協議会第２部会委員、人権問題委員会委員、キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員、英語リフレッシュ講座 WG 委員

〈学会活動〉Manuscript reviewer (American Association for Applied Linguistics)

〈社会貢献活動〉Manuscript reviewer for *Classroom Discourse* (Taylor & Francis), Manuscript reviewer for *Applied Linguistics* (OUP), Manuscript reviewer for *The Modern Language Journal* (Blackwell)

小口　一郎　(Ichiro KOGUCHI) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉研究実践基礎、研究発表演習、言語表現生態論 B

〈共通教育担当科目〉総合英語、実践英語、専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉言語文化教育論（J）

［研究活動］

〈研究テーマ〉イギリス・ロマン主義、18 世紀思想、比較文学、アカデミックライティング

〈所属学会〉イギリス・ロマン派学会、日本英文学会、日本英文学会中部支部、大阪大学言語文化学会、名古屋大学英文学会、大阪大学英文学会、e-Learning 教育学会、JACET

［研究業績］

・〈共著〉吉川朗子、川津 雅江編著『トランスアトランティック・エコロジー ― ロマン主義を語り直す』彩流社、2019 年 10 月

〈招待講演〉

・「Wordsworth: “Ode: Intimations of Immortality” ― オードというメッセージ ―」第 38 回イギリス・ロマン派講座、2019 年 7 月 6 日、早稲田大学

・“Wordsworth in the Anthropocene: Nature and Human Practice in *A Guide to the Lakes*.” Wordsworth Summer Conference, 12 August 2019, Rydal Hall.

・「『自然』から『環境』へ ― ワーズワスのエコロジー的展開」日本ソロー学会・2019 年度全国大会、2019 年 10 月 4 日、 東北文化学園大学

・「新しい時代、新しい英語教育 ― 阪大カリキュラムのミッション」大学のグローバル化・情報交換セミナー Vol. 23「新しい時代の英語教育を、共に考える」2019 年 12 月 1 日　ハービス ENT 会議室

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・“Wordsworth in the Anthropocene: Nature and Human Practice in *A Guide to the Lakes*.” Kansai Coleridge Society 184th meeting, 2 November 2019, Doshisha University.

〈研究助成〉

・「観念連合論の身体・物理的展開 ― 近代文学批評理論の学際的再評価」科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）、基盤研究（C）（一般）19K00392

［その他の活動］

〈管理運営〉マルチリンガル教育開発オフィス長

〈学会活動〉イギリス・ロマン派学会会長、イギリス・ロマン派学会理事、e-Learning 教育学会編集委員長、e-Learning

教育学会理事、名古屋大学英文学会編集委員長、大阪大学言語文化学会副委員長

難波　康治　(NAMBA Koji) 准教授

http://chiba2014.jimdo.com/

［教育活動］

〈研究科担当科目〉応用マルチメディア教育論 A・B

〈共通教育担当科目〉International Communication Seminar (Japanese) 103, International Communication Seminar (Japanese) 503

〈国際交流教育担当科目〉Japanese JA100, Japanese JA500

［研究活動］

〈研究テーマ〉日本語教育における IT 利用、接触場面における話題マネージメント

〈所属学会〉日本語教育学会、社会言語科学会、日本デジタル教科書学会、韓国日本言語文化学会、e-Learning 教育学会

［研究業績］

〈論文〉

・「日本語の自律学習を支援するオンラインプラットフォーム

「OU 日本語ひろば」の開発について」義永美央子・瀬井陽子・角南北斗・難波康治,『大阪大学国際教育交流センター研究論集　多文化社会と留学生交流』24, 2020 年 3 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「日本語学習者による日本語の撥音の知覚判断-母音に撥音が後続する場合-」韓喜善・難波康治，2019 年 韓国日語日文学会 冬季国際学術大会，2019 年 12 月，国際会議（proceedings あり）

［その他の活動］

〈管理運営〉

・ 教育情報化ワーキンググループ

・ CALL システムワーキンググループ

〈学会活動〉

・ 韓国日本言語文化学会海外理事

〈社会貢献活動〉

・公益信託井内留学生奨学基金 運営委員会委員

西口　光一（NISHIGUCHI Koichi）教授

https://koichimikaryo.blogspot.jp

［教育活動］

〈研究科担当科目〉応用言語学研究、言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉総合日本語 JA300

〈学部教育担当科目〉Psychology of language and Japanese language acquisition

［研究活動］
〈研究テーマ〉日本語教育学、言語心理学
〈所属学会〉日本語教育学会
［研究業績］
〈論文〉
・「世界内存在とことば ― 第二言語教育における実存論的転回に向けて―」、多文化社会と留学生交流第24号pp.9-18
〈口頭発表・講演・学会報告〉
・「言語の学習とクリエイティビティ」、パネルセッション『声の獲得とクリエイティビティ』、言語文化教育研究学会第６回年次大会、2020 年３月７日、同志社大学
〈研究助成〉
・ 科学研究費補助金基盤Ｃ　課題番号 16K02811「ことば行為についての対話論的対照研究―対面的相互行為におけることばの日英研究」平成 28 年度～平成 31 年度（研究代表者）
［その他の活動］
〈管理運営〉評価委員会委員（国際教育交流センター）
〈学会活動〉国立大学日本語教育研究協議会代表理事、日本語教育学会大会委員と査読委員

西田　理恵子　(Rieko NISHIDA) 准教授
http://www.rienishi.jimdo.com
［教育活動］
〈研究科担当科目〉応用言語学研究論Ａ・Ｂ
〈共通教育担当科目〉総合英語 (Content-based)
［研究活動］
〈研究テーマ〉応用言語学研究（動機づけ、情意要因）、英語教育、方法論
〈所属学会〉大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、全国英語教育学会、小学校英語教育学会、International Association for the Psychology of Language Learning (IAPLL)
［研究業績］
〈単著・編著書・共著〉
〈論文〉
・西田理恵子（2020).「複雑性理論を基盤とした学習者の言語能力と動機付けの変化に関する縦断的調査」平成 27 年度～平成 30 年度 (代表) 科学研究費助成金　挑戦的萌芽研究　15K12907 調査報告書 (pp. 1-76).
・西田理恵子 (2019). The integration of content in the language classroom to enhance students' motivation in language learning. 大阪大学大学院言語文化研究科プロジェクト 2018 (pp.11-22).
〈書評・論評・紹介〉
・西田理恵子　(2020). English-Medium Instruction in Japanese Higher Education: Policy, Challenges and Outcomes (Eds). A. Bradford., & H. Brown (2018). Multilingual Matters: Bristol. 海外新刊書紹介. 英語教育. 2020 年 2 月号. 大修館書店.（招

待執筆）

・西田理恵子 (2019). Language Teacher Psychology (Eds). S. Mercer., & A. Kostoulas (2018). Multilingual Matters: Bristol. 海外新刊書紹介．英語教育． 2019 年 8 月号．大修館書店. (招待執筆)

〈口頭発表〉

【国際学会】

・Nishida, R. (2019). Enhancement of Students' Self-efficacy in Content and Language Learning in the Japanese EFL Context. Language in Focus. Dubrovnik, Croatia.

【国内学会】

・（招待講演）阿部始子［1］湯川笑子［2］西田理恵子［3］酒井秀樹［4］(2019).「実践報告の準備と発表の仕方」ワークショップ．小学校英語教育学会．全国大会　北海道科学大学.

・西田理恵子 (2019) .大学英語学習者における言語運用能力と動機づけに関する縦断調査．口頭発表．全国英語教育学会．全国大会．弘前大学.

・西田理恵子 (2019)． Soft-CLIL を通した動機づけの縦断的変化．動機づけ研究会．大阪大学言語文化研究科.

〈研究助成〉

・平成 29 年度～平成 33 年度 (代表) 「大学英語学習者を対象とした内容言語統合型学習に関する縦断調査」　科学研究費助成金　基盤研究 B 17H02359.

〈調査活動〉

・枚方市西宮中学校の協力のもと、中学校 1 年生から中学校 3 年生を対象に中学生の動機づけと学習意欲減退要因に関する調査を行っている。

［その他の活動］

〈学会活動〉

・Psychology of Language Learning (PLL4) 国際学会大会査読委員、関西英語教育学会機関誌編集委員、動機づけ研究会運営委員.

〈社会貢献活動〉

・「国際貢献活動」：科学研究費助成金基盤研究 B 特別講演企画（University of Graz, Sarah Mercer 氏, Cape Breton University, Peter MacIntyre 氏）を招いて特別講演を行った。また、ラウンドテーブル企画（University of Vienna, Chrisiane Dalton-Puffer 氏）を行っている。

・科学研究費助基盤研究 B シンポジウム企画・運営　・箕面市中学校エクスプレッションコンテスト審査員

日野　信行　(HINO Nobuyuki) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語文化教育論、言語文化教育論特別研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、実践英語、総合英語

［研究活動］

〈研究テーマ〉「国際英語」教育

〈所属学会〉International Association for World Englishes、日本「アジア英語」学会、大学英語教育学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・Hino, Nobuyuki. ELF education for the Japanese context. In M. Konakahara & K. Tsuchiya (Eds.) *English as a lingua franca in Japan: Towards multilingual practices* (pp.27-45). Cham, Switzerland: Palgrave Macmillan. 2020 年 1 月.

〈論文〉

・Hino, Nobuyuki. The significance of paradigmatic eclecticism in teaching English for global communication. 言語文化共同研究プロジェクト 2018『新しい視点からの英語教育』(pp.1-10). 大阪大学大学院言語文化研究科. 2019 年 5 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Hino, Nobuyuki & Oda, Setsuko. Struggling with the peripherality of the Expanding Circle toward equality. The 24th IAWE conference, University of Limerick, Ireland, 2019 年 6 月 21 日.

・日野信行.「英語による専門科目授業 (EMI) における国際英語 (EIL/ELF/WE) の学び」(The integrated learning of content and English as an international language in English-medium instruction classes). 金沢大学国際基幹教育院外国語系主催講演会. 金沢大学角間キャンパス. 2019 年 11 月 1 日.

〈研究助成〉

・日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) 課題番号 18K00738「大学における内容言語統合型学習(CLIL)による国際英語(EIL)教授法の開発」2018 年度～2022 年度（研究代表者）

［その他の活動］

〈管理運営〉適塾記念センター兼任教員、研究企画推進委員会委員(研究科内)、「教員のための英語リフレッシュ講座」ワーキンググループ委員(研究科内)

〈学会活動〉*World Englishes* (International Association for World Englishes 学会誌, Wiley) Editorial Advisory Board、*Intercultural Communication and Language Education* シリーズ (Springer) Editorial Board、*Routledge Advances in Teaching English as an International Language* シリーズ (Routledge) International Advisory Board、大学英語教育学会学術出版物選考委員会分野長、大学英語教育学会社員、大学英語教育学会 ELF 研究会副代表

〈学内共同研究代表者〉言語文化共同研究プロジェクト 2018『新しい視点からの英語教育』代表者、言語文化共同研究プロジェクト 2019『新しい時代の英語教育』代表者

〈受賞〉大阪大学賞（教育貢献部門）2019 年 11 月.

村上スミス　アンドリュー　(MURAKAMI-SMITH, Andrew) 准教授

https://osakaliterature.blogspot.com/

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語表現生態論 B

〈共通教育担当科目〉英語 (Speaking)、英語 (Performance Workshop)、専門英語基礎

〈国際交流科目〉近代・現代日本文学

［研究活動］

〈研究テーマ〉近代・現代日本文学、日本の地域言語文化、翻訳理論

［研究業績］

〈書評〉

・Review of *Osaka Modern: The City in the Japanese Imaginary* by Michael P. Cronin. *Monumenta Nipponica* Volume 74, Number 2 (2019), pp. 297-305. Sophia University, March, 2020. *Project MUSE*, doi:10.1353/mni.2019.0036.

［その他の活動］

〈管理運営〉サイバーメディア・センター兼任、全学国際交流委員会傘下の OUSSEP 運営 Sub WG 委員

〈社会貢献活動〉「大阪大学の市民講座 2019～複言語学習のススメ～」講師（2020 年 9 月～12 月、計 4 回）

LEE SHZH-CHEN NANCY　講師

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉英語

［研究活動］

〈研究テーマ〉second language acquisition, speaking proficiency development, task-based language learning

〈所属学会〉　大学英語教育学会、全国語学教育学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・ Lee, S. C. N. (2020). The effects of explicit form-focused instruction on L2 oral proficiency development. Published doctoral dissertation. Temple University Japan.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Lee, S. C. N. (2020, Feb). Developing grammatical accuracy in communicative context through form-focused instruction. Temple University Colloquium. Osaka.

・Lee, S. C. N. (2020, Jan). Beyond ALESS/ALESA: Academic Englishes in Japan. The University of Tokyo. Tokyo.

【言語情報科学講座】

岩根　久　(IWANE Hisashi) 教授

http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~iwane/

［教育活動］

〈研究科担当科目〉コーパス言語学研究、言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級、フランス語中級選択

［研究活動］

〈研究テーマ〉フランス文学・言語資料処理

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、日本ロンサール学会、e-Learning 教育学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・『フランス文学小事典』増補版（柏木隆雄氏他 6 氏との共編), 朝日出版社, 2020 年 3 月.

〈論文〉

・岩井千春・岩根久，「ポライトネス理論の視点による苦情対応の日英比較―店側の落ち度の程度による対応の変化―」, *The JASEC Bulletin*, 28(1), pp.33-49.　日本英語コミュニケーション学会, 2019 年 11 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「ポライトネス理論の視点による苦情対応の日英比較―店側の落ち度の程度による対応の変化―」（岩井千春氏と共同発表）, 外国語教育メディア学会（LET）関西支部 2019 年度春季研究大会（関西国際大学尼崎キャンパス）, 2019 年 5 月 18 日.

・「苦情対応の日英比較―ロールプレイとインタビューの分析―」（岩井千春氏と共同発表）, International Conference on Foreign Language Education and Technology, August 6-9, 2019（早稲田大学早稲田キャンパス）, 2019 年 8 月 9 日.

・「語彙計量的手法を日常のテキスト分析に(4)―語彙使用の特色を探る― 」, 日本ロンサール学会 2019 年度大会（同志社びわこリトリートセンター）, 2019 年 8 月 11 日.

〈研究助成〉

基盤研究（C）（H29～R2 大阪府立大学）「観光業の苦情対応における日英比較の研究 ―語用論を活かした ESP 教材の開発―」（研究代表者 岩井千春）研究分担者

［その他の活動］

〈管理運営〉超域イノベーション博士課程プログラムプログラム委員会委員、学務情報システム運用WG委員、ネットワーク運用管理委員会委員

〈学会活動〉日本ロンサール学会会長、日本ロンサール学会編集委員、e-Learning 教育学会副会長

越智　正男　(OCHI Masao) 准教授

https://sites.google.com/site/masaoochi/

［教育活動］

〈研究科担当科目〉理論言語学研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、総合英語

［研究活動］

〈研究テーマ〉格の交替現象、名詞句の比較統語論

〈所属学会〉日本言語学会、日本英語学会、関西言語学会

［研究業績］

〈論文〉

・Ochi, Masao. On aggressively non-D-linking and causal *wh*-adjuncts.『言語文化共同プロジェクト 2018 自然言語への理論的アプローチ』, 21-30, 2019 年 6 月.

・Ochi, Masao. Labeling algorithm, agreement, and pro-form *no* in Japanese. *Proceedings of 2018 Western Conference on Formal Linguistics (WECOL2018)*, 151-161, California State University, Fresno., 2019 年 8 月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Ochi, Masao. Adnominal quantifiers, (anti-)Labeling, and pro-form *no* in Japanese," 国立国語研究所共同研究プロジェクト第 6 回ワークショップ，南山大学，2019 年 4 月 20 日.

・Ochi, Masao. Nominative-Genitive Conversion in Japanese, focus, and improper movement. 2019 Annual Western

Conference on Linguistics, California State University, Fresno, 2019 年 11 月 16 日.

・Ochi, Masao. Feature Inheritance and Nominative-Genitive Conversion in Japanese. 38th West Coast Conference on Formal Linguistics (WCCFL38), University of British Columbia, 2020 年 3 月 6 日.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金　基盤研究（C）研究代表者:「名詞項パラメータ化仮説の検証に基づく名詞項構造の普遍的性質の解明」日本学術振興会 (平成 29 年 4 月 ~)

［その他の活動］

〈管理運営〉言語文化研究科（豊中地区）過半数代表者

〈学会活動〉国立国語研究所公募型共同研究プロジェクト（日本語から生成文法理論へ：統合理論と言語獲得）プロジェクトメンバー (~ 2019 年 9 月), 国際教育交流センター教授会構成員, 国際学術雑誌及び国際学会の応募要旨査読

坂内　千里　(SAKAUCHI Chisato) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語情報科学論 A・B、言語情報科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉中国語初級、中国語中級選択、国際コミュニケーション演習（中国語）

［研究活動］

〈研究テーマ〉中国の古い字書（特に『説文解字』の注釈研究）

〈所属学会〉日本中国学会、東方学会

［研究業績］

〈論文〉

・『説文解字繫傳』「類聚篇」考、大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化研究』46、pp.7-24、2020 年 3 月

［その他の活動］

〈管理運営〉広報・社会貢献検討委員会委員、紀要編集委員会委員、コンテンツ管理委員会・情報セキュリティ委員会委員

田畑　智司　(Tabata, Tomoji) 教授

http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~tabata/

［教育活動］

〈研究科担当科目〉コーパス言語学研究, 言語情報科学特別研究

〈共通教育担当科目〉総合英語(Content-Based), 実践英語, 専門英語基礎

〈学部教育担当科目〉言語情報科学論, 学問への扉（マチカネゼミ）「ことばと文化のデータサイエンス：デジタルヒューマニティーズへの扉」

［研究活動］

〈研究テーマ〉Digital Humanities (デジタルヒューマニティーズ), Stylometry, Authorship Attribution, 機械学習を応用した近・現代英語散文の文体研究, Forensic Analysis of Texts

〈所属学会〉The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO), The European Association for Digital Humanities (EADH), Association for Computers and the Humanities (ACH), Canadian Society for Digital Humanities / Société canadienne des humanités numériques (CSDH/SCHN), Australasian Association for Digital Humanities (aaDH), Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会), The Poetics and Linguistics Association (PALA), Dickens Fellowship, Dickens Society, 英語コーパス学会，情報処理学会人文学とコンピュータ研究会(SIG-CH)

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・田畑 智司 編『テクストマイニングとデジタルヒューマニティーズ 2018-2019』（大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト 2018 成果報告書）2019 年

・田畑 智司 編『言語統計学であぶり出すテクストの諸相』（統計数理研究所共同研究ポート 438）2020 年.

〈論文〉

・田畑 智司「英国 Classic Fiction コーパスの潜在的トピック: LDA によるテクストクラスタリング」『言語統計学であぶり出すテクストの諸相』（統計数理研究所共同研究ポート 438）pp. 23–34, 2020 年.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Tomoji Tabata, Reading texts non-linearly: Classic British fiction and Dickens（招待講演）, Gale Digital Humanities Day at the British Library, 2 May 2019, The British Library, London, UK.

・Tomoji Tabata, Reading texts non-linearly: Classic British fiction and Dickens（招待講演）, Gale Digital Humanities Day at the British Library, 2 May 2019, The British Library, London, UK.

・Tomoji Tabata, Tracing Thematic Transition in Dickens's Literature and Journalism, PALA Liverpool 2019 Stylistics without Borders, 10th-14th July 2019, Liverpool, UK.

・Tomoji Tabata, Experimental Stylometry（招待講演）, Stylometry workshop Amsterdam 2019, 15th--17th July 2019, Netherlands Institute for Advanced Study in the Humanities and Social Sciences (NIAS), Amsterdam, the Netherlands.

・Tomoji Tabata, "Nothing out of the ordinary": Digital Humanities and style in classic British fiction（招待講演）, "World Literature & Digital Humanities: Cultural Changes after the Fourth Industrial Revolution", The Korean Society of East-West Comparative Literature's third International Conference, 26--27th October 2019, Pohang Institute of Science and Technology, Pohang, South Korea.

・Tomoji Tabata, Dickens, Collins, and their Collaborations: Pinpointing style change in collaborative texts（招待講演）, Trans Media World Literature Institute International Colloquium: Transhumanism, Trans Media, World Literature, and Digital Humanities, 28th October 2019, Dongguk University, Seoul, South Korea.

・Tomoji Tabata, "Zooming in and zooming out": Digital humanities and the (macro-/micro-) reading of texts（招待講演）, 4 December 2019, National Chengchi University, Taipei, Taiwan.

・Tomoji Tabata, Digital Humanities as Non-Linear Reading: Style in classic British fiction（招待講演）, DADH 2019: The Tenth International Conference of Digital Archives and Digital Humanities, 5--6 December 2019, National Taiwan Normal University, Taipei, Taiwan.

・田畑 智司「ズームイン・ズームアウト—デジタルヒューマニティーズとテクストの「読み」—」（招待講演）Gale シンポジウム 2020『第 2 回　デジタル人文学への誘い』2020 年 1 月 25 日 大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）.

〈研究助成〉

・2018–2021 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「機械学習によるコーパス文体論分析モデルの提示とそれに基づく国際連携基盤の創成」研究代表者

・2019–2021 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「ディケンズ・レキシコンとデジタルヒューマニティーズによる英文学研究基盤創成」研究分担者（研究代表者：広島大学・今林 修）

・2019–2021 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「英米文学作品における歴史的文体研究としての英語表現史研究：身体表現の機能の解明」研究分担者（研究代表者：安田女子大学・高口 圭輔）

［その他の活動］

〈学会活動〉The Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO) Conference Coordinating Committee, The ADHO Standing Committee on Awards, President of the Japanese Association for Digital Humanities, 英語コーパス学会理事,『英語コーパス研究』編集長

ホドシチェク　ボル　(HODOŠČEK Bor) 准教授

https://nlp.lang.osaka-u.ac.jp/

［教育活動］

〈研究科担当科目〉自然言語処理 A・B

〈共通教育担当科目〉実践英語、総合英語（Performance Workshop）、英語(Speaking)

［研究活動］

〈研究テーマ〉自然言語処理、コーパス言語学、日本語作文支援システム

〈所属学会〉言語処理学会、Japanese Association for Digital Humanities (JADH) & Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO)

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・Analysis of correctness in adverb use in the Japanese composition support system Nutmeg，Hodošček Bor, Nishina Kikuko, Yagi Yutaka, Abekawa Takeshi，The Japanese Language from an Empirical Perspective: Corpus-based studies and studies on discourse，Znanstvena založba Filozofske fakultete Univerze v Ljubljani，ISBN 9789612378868，2020 年 01 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・An Analysis of the Differences Between Classical and Contemporary Poetic Vocabulary of the Kokinshu，Hilofumi Yamamoto, Hodošček Bor，JADH 2019 "Localization in Global DH"，68-71，2019 年 08 月，国際会議（proceedings あり）

〈研究助成〉

・基盤研究(C)『日本語作文支援システムのための複合機能表現の獲得と用法の分析』（2018-2021）（代表：阿辺川武）（研究課題番号 18K00703）研究分担者

・基盤研究(C)『歌ことばの効果的可視化技術と通時的言語変化記述に関する基礎研究』（2018-2022）（代表：山元啓史）（研究課題番号 18K00528）研究分担者

［その他の活動］

〈管理運営〉部局情報システムセキュリティ責任者、部局CSIRT、部局ネットワーク運用管理責任者、コンテンツ管理委員長、部局キャンパスメールサービス管理者、ODINS保守業務調達仕様策定委員会委員

三藤　博　(MITO Hiroshi) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語構造論、言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級

［研究活動］

〈研究テーマ〉理論言語学、フランス語学

〈所属学会〉日本言語学会、日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会, 日本英語学会

［研究業績］

〈論文〉

・「Glue意味論の可能性」、『自然言語への理論的アプローチ』、大阪大学言語文化研究科、2019年、pp. 71-78。

・「意味論の基礎についての再考察」、『コレスポンデンス Correspondances 北村卓、岩根久、和田章男三教授退職記念論集』、朝日出版社、2020年、pp. 789-799。

［その他の活動］

〈管理運営〉学生支援委員会委員長

〈学会活動〉日本フランス語学会編集委員

三宅　真紀 (MIYAKE Maki) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉コーパス言語学研究

〈共通教育担当科目〉英語(Reading), 専門英語基礎, 総合英語(リベラルアーツ＆サイエンス), 総合英語(コンテント中心型)

［研究活動］

〈研究テーマ〉計算言語学, コーパス言語学, 新約聖書学

〈所属学会〉情報処理学会準会員（人文科学とコンピュータ研究会）, Japanese Association for Digital Humanities (JADH: 日本デジタルヒューマニティーズ学会)

［研究業績］

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Applying Measures of Lexical Diversity to Classification of the Greek New Testament Editions, DH2019, オランダ(ユトレヒト), 2019年7月.

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究（C）「新約聖書デジタル写本における深層学習による写字識別キュレーションシステムの構築」研究代表者

［その他の活動］

〈管理運営〉データビリティフロンティア機構兼任, ネットワーク運用管理委員会委員, 図書委員

〈学会活動〉人文科学とコンピュータ研究会運営委員, JADH 選挙管理委員

宮本　陽一　(MIYAMOTO Yoichi) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉理論言語学研究 A・B, 言語情報科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉学問への扉 (言語科学入門), 専門英語基礎, 総合英語 (Liberal Arts and Sciences), 総合英語 (Content-based English)

〈学部教育担当科目〉言語学概論 A

［研究活動］

〈研究テーマ〉Disjunctive Phrases の意味構造, N'-ellipsis の統語メカニズム, Argument Ellipsis の L2・L3 獲得

〈所属学会〉日本英語学会, 日本言語学会, 関西言語学会

［研究業績］

〈著書、共著〉

・菅原彩加, 宮本陽一「意味論と第一言語獲得のインターフェイスーExhaustification の観点からー」西原哲雄, 都田青子, 中村浩一郎, 米倉よう子, 田中真一編『言語におけるインターフェイス』, 開拓社, 153-167, 11/2019.

・宮本陽一, 山田一美「第三言語における発音されない項の獲得ー日本人スペイン語学習者の L3 文法を例にー」白畑知彦, 須田孝司編『第二言語習得研究の波及効果ーコアグラマーから発話までー』, くろしお出版, 177-220, 03/2020.

〈論文〉

- Miyamoto, Yoichi. A Note on Movement out of an Ellipsis Site: A Study of Chinese Relative Clauses and N'-ellipsis.『言語文化共同研究プロジェクト 2018 自然言語への理論的アプローチ』, 大阪大学言語文化研究科, 79-88, 05/2019.
- Bade, Nadine, Ryota Nakanishi, Frank Sode, Yasuhiro Iida, Shun Ihara, Mika Ebara, Hajime Ono, Yoichi Miyamoto and Uli Sauerland. Japanese *Wa* and *Ga* as Scope Markers of EXH. *Proceedings of the 14th Workshop on Altaic Formal Linguistics*, MITWPL, 21-28, 07/2019.
- Tamura, Ayaka, Yoichi Miyamoto and Uli Sauerland. Rescuing *Mo* and *Ka*: The PPI Status of Japanese Connectives. *Proceedings of the 14th Workshop on Altaic Formal Linguistics*, MITWPL, 329-336, 07/2019.
- Asano, Mana and Yoichi Miyamoto. Disjunction in L1 Japanese Imperatives. *Proceedings of the International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2019*, ISMBS, 1-7, 12/2019.
- Miyamoto, Yoichi and Kazumi Yamada. On the Interpretation of Null Arguments in L2 Japanese by L1 German Speakers. *Journal of Monolingual and Bilingual Speech* 1.2, 312-332, 12/2019.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- Asano, Mana and Yoichi Miyamoto. Disjunction in L1 Japanese Imperatives. International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech 2019, 08/30/2019, Great Arsenali Conference Center, Chania.
- 宮本陽一「非顕在的であるということ」, J-SLA 秋の研修会, 10/27/2019, 日本大学, 砧キャンパス.

- Otani, Shuki, Andreea Nicolae, Mana Asano, Yoichi Miyamoto and Kazuko Yatsushiro. The Relative Scope of Connectives and Negation in Japanese Children. Boston University Conference on Language Development 44, 11/09/2019, Boston University, Charles River Campus.
- Asano, Mana and Yoichi Miyamoto. Connectives in L1 Japanese Imperatives. メディア・コミュニケーション研究院 言語学ワークショップ, 02/22/2020, 北海道大学, 札幌キャンパス.

〈研究助成〉

- 科学研究費補助金（基盤研究Ｃ：研究代表者）「生成文法の枠組みにおける量化に関する方言研究」日本学術振興会 (04/2018－03/2021)
- 科学研究費補助金（基盤研究Ｂ：研究分担者）「文法性の錯覚から見た第二言語処理の解明と、その英語教育への応用」日本学術振興会 (04/2017－03/2020)
- 科学研究費補助金（基盤研究Ｃ：研究分担者）「名詞項パラメータ化仮説の検証に基づく名詞項構造の普遍的性質の解明」日本学術振興会 (04/2017－03/2020)
- 大阪大学国際共同研究促進プログラム（タイプＡ：研究代表者）「言語と論理的思考の発達に関する研究」大阪大学 (04/2018－03/2021)

〈共同研究〉

- 国立国語研究所公募型共同研究プロジェクト（日本語から生成文法理論へ：統語理論と言語獲得）プロジェクトメンバー (－09/2019)
- 大阪大学国際共同研究促進プログラム（タイプＡ）「言語と論理的思考の発達に関する研究」Leibniz-Zentrum Allgemeine Sprachwissenschaft との国際共同研究実施責任者

［その他の活動］

〈管理運営〉副研究科長 (04/2019－)

〈学会活動〉日本言語学会評議員, 日本言語学会夏期講座委員 (－09/2019), 日本言語学会大会発表賞審査委員, ISMBS 2019 International Scientific Committee, ISMBS 2021 International Scientific Committee, Journal of East Asian Linguistics Editorial Board, Journal of Monolingual and Bilingual Speech Editorial Board, その他, 国際学会発表要旨・学術雑誌論文査読.

〈社会貢献活動〉放送大学大阪学習センター客員教授 (言語学)

山本　武史　(YAMAMOTO Takeshi) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語情報科学論Ａ・Ｂ

〈学部教育担当科目〉英語 2(A)（作文）、英語 3(C)（LL）、（学部方法論科目）言語情報科学論(A)・(B)、英語学特別演習Ⅱa・b(B)、英語学講義ａ・ｂ、英語学Ⅰａ・b(F)（上級英語）

［研究活動］

〈研究テーマ〉英語における語の音韻構造（特に、音節構造と強勢）

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本音韻論学会、日本音声学会、日本言語学会、International Phonetic Association

［研究業績］

〈論文〉

・山本武史 (2019)「英語の無強勢音節―子音の重さと形態構造―」『音声言語の研究』13［言語文化共同研究プロジェクト 2018］，pp. 91−101，大阪大学大学院言語文化研究科

〈研究助成〉

・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)）「分節素の重さとソノリティーの統合」（17K02832、2017年度〜2019 年度）研究代表者

［その他の活動］

〈管理運営〉人権問題委員（キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員）（講座内）

〈学会活動〉関西言語学会編集委員、日本音声学会音声学普及委員、『京都大学言語学研究』編集委員

由本　陽子　(YUMOTO Yoko) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉理論言語学研究、言語情報科学特別研究、研究実践基礎、研究発表演習

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)、総合英語

［研究活動］

〈研究テーマ〉語彙意味論、語形成論

〈所属学会〉日本英語学会、日本言語学会、日本語文法学会、関西言語学会、日本英文学会、日本英文学会関西支部

［研究業績］

〈論文〉

・「形容詞を基体とする複合語についての一考察」越智正男（編）『言語文化共同研究プロジェクト 2018 自然言語への理論的アプローチ』2019.5, pp.89-98. 大阪大学大学院言語文化研究科.

・「「動詞＋動詞」型複合語の意味合成メカニズム再考」『日語偏誤与日語教学研究（日本語誤用と日本語教育研究）』2019.7, 第 4 号 pp. 59-78. 日語偏誤与日語教学学会. 杭州　（招待）

・「日本語の複合における事象から属性へのシフト―「X+動詞連用形」型複合名詞を中心に」于一楽・江口清子・木戸康人・眞野美穂（編）『統語構造と語彙の多角的研究』2020.3, pp.335-350, 開拓社.

〈講演〉

・「語彙概念構造によって明らかになる動詞の文法的性質」2019.7.2、於立命館大学　衣笠キャンパス.

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究(B) 『語形成から迫る形容詞の意味と項構造』研究代表者

［その他の活動］

〈管理運営〉グローバル連携オフィス副理事、男女協働推進オフィス総長補佐

〈学会活動〉日本言語学会評議員、日本言語学会編集委員、日本言語学会倫理委員会副委員長、日本英語学会評議員、関西言語学会運営委員

【言語認知科学講座】

井元　秀剛 （IMOTO Hidetake）教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉認知意味理論研究

〈全学共通教育担当科目〉フランス語初級、フランス語中級、地域言語文化演習、「囲碁」で論理的思考を養おう

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス語学、認知言語学

〈所属学会〉日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、日本認知言語学会、日本英語学会、国際ロマンス語学会、国際認知言語学会

［研究業績］

〈論文〉

・「語順と呼応の関係についての一考察」『言語文化共同研究プロジェクト 2018：時空と認知の言語学 VIII』、2019 年 5 月

・「フランス語の視点に関する覚え書き」『CORRESPONDANCES』（朝日出版社）pp. 721-733, 2020 年 2 月

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(C)研究代表者：「メンタルスペース理論によるアスペクトに関する日英仏対照研究(平成 26 年 4 月～)

［その他の活動］

〈管理運営〉大阪大学 21 世紀懐徳堂企画会議委員

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会編集委員

大神雄一郎　(OGAMI Yuichiro) 助教

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉英語

［研究活動］

〈研究テーマ〉認知言語学の観点による日英語の研究

〈所属学会〉日本認知言語学会、日本語用論学会、関西言語学会、日本英語学会、日本語文法学会、日本言語学会、国際認知言語学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・『「なる」構文の多義性とそのメカニズム―なぜスカートは短くなるのか？―』大阪大学出版会.

〈論文〉

・「「青い目をしている」構文再考―「男好きのする顔をしたあの娘」はどこからやってくるのか？」『日本認知言語学会論文集』第 18 巻、pp. 332-344.

・「事物の状態・性質を表す「する」の意味拡張―英語動詞“have”の主体化との接点―」『言語文化共同研究

プロジェクト 2018』pp. 1-10.

・「日本語の時間移動型メタファーの言語的発現と成立基盤」、鍋島弘治朗・楠見孝・内海彰編『メタファー研究 2』ひつじ書房、101-124.

・「状態・性質を表す「する」構文の意味的基盤」、米倉よう子・山本修・浅井良策編『ことばから心へ：吉村公宏先生退職記念論文集』開拓社、317-330.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・"Is Time Moving in Japanese?" Researching Metaphor: Cognitive and Others, May 2019, University of Genova.

・"On the Experiential Bases of the Two Meanings of Temporal "Saki" in Japanese" International Cognitive Linguistics Conference 15, August 2019, Kwansei Gakuin University.

・"On the conditions for the establishment of the stative or attributive X wa Y o shiteiru pattern in Japanese" Linguistics and Asian Languages 2020, Adam Mickiewicz University, 開催延期.

〈研究助成〉

・日本学術振興会 研究活動スタート支援（研究課題/領域番号：19K20789）

・平成 30 年度大阪大学教員出版支援制度（2019 年 9 月 単著刊行）

［その他の活動］

〈学会活動〉 日本認知言語学会全国大会実行委員、日本語用論学会メタファー研究会事務局、大阪大学言語文化学会事務局

大森　文子　(OMORI Ayako) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉認知レトリック論研究 A・B、言語認知科学特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉英語

［研究活動］

〈研究テーマ〉認知言語学

〈所属学会〉 日本英文学会、日本英文学会関西支部、日本英語学会、日本認知言語学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・（共編著）*Advanced Reading Word to Word* (ニュースメディアで読み解く現代日本)　松柏社、2019 年 4 月

・（共著）『認知言語学大事典』朝倉書店、2019 年 10 月

〈論文〉

・「Owen のメタファーとオクシモロン」『レトリックとコミュニケーション（言語文化共同研究プロジェクト 2018）』 大森文子編、pp. 11-22、2019 年 5 月

〈研究助成〉

・科学研究費補助金基盤研究(C) (2016-2019)「英語メタファーの認知詩学」（研究代表者）

・科学研究費補助金基盤研究(C) (2015-2019)「英詩メタファーの構造と歴史」（研究分担者）

・科学研究費補助金基盤研究(C) (2019-2022)「英詩メタファーの構造と歴史 II」（研究分担者）

［その他の活動］

〈管理運営〉（全学）前期日程試験外国語科目別連絡委員会委員長、学部入試制度小委員会委員

（研究科内）講座代表者、計画・評価委員会委員、入試委員会委員

〈学会活動〉日本認知言語学会編集委員、言語文化レトリック研究会（言語文化研究科内研究会）主催

小薬　哲哉　(KOGUSURI Tetsuya) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉認知言語学研究 A・B

〈共通教育担当科目〉総合英語 (Project-based English)、総合英語 (Academic Skills)、専門英語基礎、英語選択、〈学部教育担当科目〉言語認知科学論(A)（豊中開講）

［研究活動］

〈研究テーマ〉語彙意味論・構文文法理論・並列構造理論

〈所属学会〉日本英語学会、日本言語学会、日本認知言語学会、関西言語学会、日本語文法学会、英語語法文法学会、筑波英語学会、大阪大学言語文化学会

［研究業績］

〈論文〉

・Kogusuri, Tetsuya (2019) "On the Emphatic Reflexive in Japanese: With Special Reference to *Zibun-de,*" 『認知・機能言語学研究 IV』, 31-40, 学術論文.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・小薬哲哉 (2019)「「自分から」の副詞的強意用法―構文形態論的アプローチ」、第 7 回筑波英語学若手研究会、2019 年 9 月、於奈良女子大学.

・Kogusuri Tetsuya (2019) "Emphatic Reflexives in Japanese: A Frame-Constructional Approach," International Cognitive Linguistic Society 15, August, 2019, Kwansei Gakuin University.

・小薬哲哉 (2019)「「自分から」「自分で」の強意用法に関するフレーム・構文論的分析」、洛中ことば倶楽部、2019 年 07 月、於奈良女子大学.

〈研究助成〉

・文部科学省科学研究費若手研究 (B) (研究代表者)『再帰構文における他動性と動作主性に関する対照研究』(No. 17K13446)（平成 29 年度～平成 31 年度）

［その他の活動］

〈管理運営〉キャンパス・ハラスメント問題小委員会委員長、人権問題委員会委員、高度副プログラム「言語学」実行ワーキンググループ委員

〈学会活動〉日本英語学会事務局、日本認知言語学会全国大会実行委員

高橋　克欣　(TAKAHASHI Katsuyoshi) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語認知科学論 A・B

〈共通教育担当科目〉フランス語中級

〈学部教育担当科目〉フランス語１（A・B）、フランス語１１、フランス語学講義a・b、フランス文化演習Ⅳa・b、フランス語科教育法Ⅱ

［研究活動］

〈研究テーマ〉フランス語学（時制論）、フランス語教育

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会、日本フランス語教育学会

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・『プチ・ロワイヤル仏和辞典』第５版（旺文社）（共著・専門執筆）

〈論文〉

・「半過去の非自立性と談話的時制解釈」、『CORRESPONDANCES』（朝日出版社）749-760 頁

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・「私たちの身近にあるフランス語・フランス文化」、マンスリー多文化サロン講演（大阪大学外国語学部・みのお市民活動センター共同主催）

［その他の活動］

〈管理運営〉広報・社会貢献検討委員会委員（前期）、設備・施設マネジメント委員会委員、大阪大学言語文化学会委員長、

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会関西支部実行委員・編集委員、日本フランス語教育学会会計担当理事

田村　幸誠　(TAMURA Yukishige) 准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉認知意味論研究Ａ・Ｂ

〈共通教育担当科目〉総合英語

〈学部教育担当科目〉英語３, 英語学概論 a b, 英語学演習 a, b, 英語学特別演習 a, b

［研究活動］

〈研究テーマ〉英語とエスキモー語（Central Alaskan Yup'ik）の対照研究

〈所属学会〉日本言語学会、日本英文学会、アメリカ言語学会、国際類型論学会

［研究業績］

〈書評・論評・紹介〉

・コラム「理想化認知モデル」「脱範疇化／脱カテゴリー化」「類像性」『認知言語学大辞典』辻幸夫編集主幹、朝倉書院　(コラム番号　15, 25, 18 全５ページ).

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ “Dependent-Framed Grammatical Nominalization and Head-Framed Grammatical Nominalization: An Argument from Central Alaskan Yup'ik”　Osaka International Workshop on Nominalization, at Nambu Yoichiro Hall, Osaka University, September 14th, 2019.

〈研究助成〉

・科研費　基盤研究（C）18K00534　名詞化と補文化に関する通言語的研究ーユピック・エスキモー語を中心にー

［その他の活動］

〈学会活動〉関西言語学会 大会実行委員

早瀬　尚子 （HAYASE Naoko）准教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉認知言語学研究・認知言語学特別研究

〈共通教育担当科目〉学問への扉・専門基礎（ヨーロッパ・アメリカ言語文化研究入門）

〈学部教育担当科目〉英語３（LL）・英語 13（総合英語）・英語学演習・英語学特別演習

［研究活動］

〈研究テーマ〉認知言語学的枠組みによる構文研究、言語の主観性、視点、日英比較

〈所属学会〉関西言語学会、日本英語学会、日本認知言語学会、国際認知言語学会(International Cognitive Linguistics Association)

［研究業績］

〈論文〉

・早瀬尚子（2020）「視点と事態解釈」池上嘉彦・山梨正明（編）『認知言語学 II （講座 言語研究の革新と継承 5）』pp.23-54.

・早瀬尚子（2020）「過去分詞由来の懸垂分詞が見せる変遷：構文化の観点から」『ことばから心へ：吉村公宏先生退職記念論文集』開拓社、317-330.

〈辞典・事典〉

・早瀬尚子（2019）「構文文法」辻幸夫（編集主幹）『認知言語学大事典』朝倉書店　207-219.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・早瀬尚子（2019）「Assuming の後置用法について」第 18 回洛中ことば倶楽部（於　中之島センター：2019 年 3 月 4 日）

・HAYASE, Naoko (2019) “On the Pattern of Semantic Change in Dangling Participle Phrases into (Inter)subjective Function” The 16th International Pragmatic Conference (Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong: 2019 年 6 月 11 日)

・早瀬尚子（2019）「仮定を表す懸垂分詞からの意味分化」藤女子大学公開講演会（於　藤女子大学：2019 年 9 月 6 日）

〈研究助成〉

・文部科学省 科学研究費基盤研究 (C)「主観的事態把握から対人関係的機能の発達の多様性に関する多言語研究」（No.18K00647）（平成 30 年度～33 年度）

［その他の活動］

〈学会活動〉理事・学会誌副編集委員長（日本認知言語学会）、運営委員（関西言語学会）

渡辺　秀樹　(WATANABE Hideki) 教授

［教育活動］

〈研究科担当科目〉認知レトリック論Ａ・Ｂ、言語認知科学特別研究Ａ・Ｂ

〈共通教育担当科目〉英語

〈学部教育担当科目〉英語学演習

［研究活動］

〈研究テーマ〉英語メタファー研究、英詩レトリックの史的系譜研究、英語 Reading 方法論と教科書編纂

〈所属学会〉日本中世英語英文学会、日本英文学会、国際英語正教授連盟（International Association of University Professors of English (IAUPE)）

［研究業績］

〈単著・編著書・共著〉

・渡辺秀樹・大森文子　編集　*Advanced Reading Word to Word*『ニュースメディアで読み解く現代日本』松柏社　平成 31 年 4 月 10 日刊

〈論文〉

・渡辺秀樹「英語感情語のメタファーの系譜　第 2 回　シェイクスピア『ソネット集』のレトリック再考：感情語の類義・反義を中心に」『レトリックとコミュニケーション　言語文化共同研究プロジェクト 2018』大阪大学言語文化研究科 1-10.　平成 31 年 5 月刊

〈研究助成〉

・2019 年度科学研究費補助金基盤研究Ｃ「英詩メタファーの構造と歴史」(2015-2019)（代表者渡辺秀樹）

・2019 年度科学研究費補助金基盤研究Ｃ「英詩メタファーの構造と歴史 II」(2019-2022)（代表者渡辺秀樹）

・2019 年度科学研究費補助金基盤研究Ｃ「英語メタファーの認知詩学」（研究代表者大森文子・分担者渡辺秀樹）

［その他の活動］

〈社会貢献活動〉平成 31 年 4 月 13～14 日　放送大学大阪校　面接授業講師「英文精読と和訳 III」

【マルチリンガル教育センター】(Center for Multilingual Education)

[英語]

Brenes, Ivan Martin, Specially appointed associate professor

[Teaching activities]

<Undergraduate Classes> English (Performance Workshop), English (Practical English), English (Speaking) English (English for Special Purposes)

[Academic activities]

<Research fields and interests> Language Revitalization, Linguistic Landscape, Sociolinguistics of Orthography

<Academic society memberships> Foundation for Endangered Languages

[Academic achievements]

<Papers>

・"Ainu in the Linguistic Landscape: Reflections on Commodification and Authenticity from Akan, Hokkaido", Studies in Language and Culture 46 (2020)

COHEN, Tamara(h), Specially Appointed Associate Professor（特任准教授）

[Teaching activities]

<Foreign Language classes> All English language courses taught as content courses using original (mostly paper-free) materials made specifically for Osaka University students

[Academic activities]

<Research fields and interests> Transforming mandatory skills-based English courses into intellectually relevant, critically engaged learning opportunities. A small sampling from the 2019 academic year: Academic Skills, delivered as 1. A Body Toxic, content course with an emphasis on human and environmental health; 2. A Food Politics content course with an emphasis on health patterns associated with food and die; 3. An Animal Welfare content course with an emphasis on the international issues arising from animal use in all its forms; 4. An International Gender Equality content course with an emphasis on narrative, analysis and policy prescriptions

<Academic society memberships> Gender Awareness in Language Education [i.e., GALE, special interest group of JALT]

[Academic achievements]

<Pedagogical Materials Writing> Continue in the writing of original, critically-imbued, technologically-infused, modality-specific pedagogical materials that 1. Correspond, chapter by chapter, with adult-level non-EFL publications (used currently in lieu of commercial EFL textbooks) or 2. Are Internet-based and thus paper-free

[Other activities]

<THE KYOTO RIVERCAT MISSION: An Animal Welfare Blog> https://www.facebook.com/tamarah.cohen.9

A daily-updated, Japan-specific Animal Welfare Blog that students are invited to follow and contribute to – entirely voluntarily and involving no credit

GOVOROUNOVA, Alena, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Foreign language classes> English: Performance Workshop, English: Integrated Course V, English: Basic ESP, English: Writing, English: Listening

[Academic activities]

<Research fields and interests> Cognitive Rhetorical Studies, Comparative Religion, Science and Religion Dialogue, Bioethics, Intellectual History

HELVERSON, Gwyn Specially appointed associate professor

[Teaching Activities]

<Foreign Language Classes> English (Speaking) I & II, English (Writing), Basic ESP II, Practical English I & II, Advanced (Reading), Advanced (Speaking), Test-taking Preparation Course

[Academic activities]

<Research fields and interests> EFL, gender studies, feminist art history, Japanese Studies

<Academic society memberships>JALT, GALE, SIETAR

[Academic achievements]

<Papers>

・Journal and Proceedings of the Gender Awareness in Language Education (GALE) Special Interest Group of the Japan Association for Language Teaching., Vol. 12, Helverson, G. & Hahn, A., Eds., Japan Association for Language Teaching Gender Awareness in Language Education Special Interest Group, Tokyo, Japan., 2020.01

<Conference presentations/Invited lectures>

・Pan SIG Conference 2019, Addressing Gender Equity., 2019.05

・Sietar Japan 34th Annual Conference, Re-telling the tale in one's own voice: A creative writing module for language skills development, content-based learning, and increased self-awareness, 2019.11

<Academic society activities> Academic Journal Lead Editor: The Journal and Proceedings of the Gender Awareness in Language Education (GALE) Special Interest Group of the Japan Association for Language Teaching

<Social activities> GAP (Global Art Project) Regional Coordinator

Malik, Luke (Specially appointed associate professor)

https://osaka-u.academia.edu/LukeMalik

https://www.researchgate.net/profile/Luke_Malik3

[Teaching activities]

<Graduate Classes> Ontology (Introduction to American Philosophy, Theories of Metaphor)

Special English Class A

<Undergraduate Classes> English for Special Purpose, English (Listening), Integrated English

Contemporary Philosophy (Introduction to American Philosophy, Theories of Metaphor)

Ontology (Introduction to American Philosophy, Theories of Metaphor)

[Academic activities]

<Research fields and interests>

Metaphor and Category Mistakes

EAP, Genre English (Logic in English)

<Academic society memberships>

JALT

Philosophy Association of Japan

[Academic achievements] (here, list your publications, oral presentations, etc.)

<Papers>

・Malik, L. (Forthcoming 2019). “Giambattista Vico’s Political Philosophy: Poetry First” *Rhetoric, Metaphor, Discourse*.

<Conference presentations/Invited lectures>

・”What We Can about Category Mistakes from Donald Davidson’s Theory of Metaphor” Philosophy Department Seminar, June 2019, Department of Philosophy and History of Philosophy, Osaka University, Osaka, Japan

TANG, Polly Liyen.　Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate Classes> Special Class A, Special Class B

<Undergraduate Classes> Performance Workshop, Practical English, English Speaking, Integrated Course, Basic ESP

[Academic activities]

<Research fields and interests> Peer Feedback, Discourse Analysis, Communication Studies, Genre Discourse, EAP Writing

<Academic society memberships> Japanese Association for Language Teaching, Japanese Association for College Language Teachers

[Other activities]

<Social activities> Volunteer at ARK, Osaka

三木　訓子　(MIKI Noriko) 助教

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉実践英語、総合英語、英語選択

［研究活動］

〈研究テーマ〉学習者オートノミー、自己効力感

〈所属学会〉外国語教育メディア学会(LET)、大学英語教育学会(JACET)

［研究業績］

〈実践報告〉三木訓子（2020)「ビデオ視聴による自己フィードバックをプレゼンテーション能力向上につなげる試み」『JACET 関西支部紀要』第 22 号 118-123. 2020 年 3 月.

［その他の活動］

〈管理運営〉マルチリンガル教育センターカリキュラム委員

[ドイツ語]

アウマン　オリバー　(AUMANN Oliver) 外国人教師

http://www. oliver-aumann.de

［教育活動］

〈研究科担当科目〉ドイツ語特別演習 A

〈共通教育担当科目〉国際コミュニケーション演習（ドイツ語）、ドイツ語初級選択、ドイツ語中級

［研究活動］

〈研究テーマ〉日本学、比較宗教学

〈所属学会〉日本独文学会

［研究業績］

〈論文〉

・ *Die Freude der Fische - Daoistische Fingerzeige für die Gegenwart.* 文化の解読 19（文化とメディア）大阪大学大学院言語文化研究科 2019、1−10 頁。

［その他の活動］

・〈社会貢献活動〉DAAD（ドイツ学術交流会）留学アドバイザー、国際交流基金関西国際センター (Japan Foundation) 外国人研修生支援

フェーゲル　ベルトリンデ　(VÖGEL Bertlinde) 外国人教師

［教育活動］

〈研究科担当科目〉言語特別演習 B（ドイツ語）

〈共通教育担当科目〉国際コミュニケーション演習（ドイツ語）、ドイツ語中級、ドイツ語中級選択、ドイツ語上級

［研究活動］

〈研究テーマ〉Förderung des flüssigen Sprechens bei AnfängerInnen, Sprachen lernen mittels *chunks,* Kriegskinder und Kriegsenkel in Deutschland, Gehirnforschung und Lernen, *Global Issues* im Deutschunterricht für Anfänger

〈所属学会〉 JALT (Japanese Association of Language Teaching), Japanische Gesellschaft für Germanistik (日本独文学会) (JGG), Verband der Deutschlehrenden in Japan (VDJ), Gesellschaft für Germanistik Osaka-Kobe (阪神ドイツ文学会)

［研究業績］

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Vortrag auf der 7. JALT-OLE-SIG-Konferenz in Kurume (5. – 6. Okt.) "Understanding Other Cultures by Understanding Collective Trauma: The Research on Children and Grand-children of the Second World War in Germany."

・Vortrag auf der 45. JALT-Konferenz in Nagoya (1. – 4. Nov.) „Verbessert sich durch den Fokus auf das Verb (und die Wortstellung) die Flüssigkeit beim Sprechen?"

・Kriegskinder und Kriegsenkel in Österreich. Vortrag an der Ryukoku-Universität (龍大オーストリア研究会）am 18. Feb. 2020

［その他の活動］

〈学会活動〉Coordinator der Special Interest Group „OLE" im Rahmen von JALT,　JALT Osaka Chapter: Officer at Large

〈社会貢献活動〉Mitglied des Organisationskomitees für das 28. Seminar zur österreichischen Gegenwartsliteratur mit Thomas Stangl in Nozawa Onsen

[フランス語]

ガラベ　クリストフ　(GARRABET Christophe) 特任准教授

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉国際コミュニケーション演習（フランス語）

［研究活動］

〈研究テーマ〉文学と科学の関係 ― 19 世紀後半における大衆科学文学

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会

［研究業績］

〈論文〉GARRABET Christophe, « Les bibliothèques populaires et scolaires, nouveaux marchés littéraires de la seconde moitié du XIXe siècle »、『表象と文化 XVI』（言語文化共同研究プロジェクト 2018）、大阪大学言語文化研究科、pp. 9-18、2019 年 5 月

デルベス　セバスチャン　(DELBES Sébastien) 特任准教授

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉フランス語

〈研究テーマ〉Exploitation des forums de discussion électronique pour l'enseignement/apprentissage du FLE à destination d'un public non captif : potentiels et limites

〈所属学会〉関西フランス語教育研究会

サラニョン　バンジャマン (SALAGNON Benjamin) 特任准教授

[Teaching activities]

<Graduate School classes>

言語特別演習 B（フランス語）

<Foreign language classes>

国際コミュニケーション演習（フランス語）、フランス語中級、フランス語上級、地域言語文化演習（フランス語）

[Academic activities]

<Research fields and interests>　Contemporary Japanese Literature, Japonisme, Language Teaching.

<Academic society memberships>　IETT LYON

[Academic Achievements]

<Books> フランス語の教科書(共著)：「ケスクセ［改訂版］」、白水社、2020 年 2 月、ISBN　9784560061374

<Grants-in-aid>

（基盤Ｃ（分担）ベル・エポック期における文学・美術思潮からみた映画の位相と影響に関する実証的研究（平成３０年４月１日～令和３年３月３１日）

［中国語］

夏　嵐　(XIA LAN) 特任准教授

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉中国語初級、中国語中級、国際コミュニケーション演習（中国語）

［研究活動］

〈研究テーマ〉中国演劇、中国話劇史上の翻訳劇

〈所属学会〉日本中国学会、中国比較文学学会

〈研究助成〉

・科学研究費基盤研究Ｂ（課題番号 A19H012820）「異文化理解における外国語教科書の役割ー中国語・ロシア語・朝鮮語を対象としてー」（研究分担者、2019～2021 年度）

〈調査活動〉

・「異文化理解における外国語教科書の役割」に関する資料閲覧・収集（2019 年 12 月北京）

［多言語教育開発チーム］

安部麻矢 (ABE Maya) 特任講師

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉英語

〈学部教育担当科目〉スワヒリ語

［研究活動］

〈研究テーマ〉タンザニア・マア語の 2 変種の社会言語学的記述研究－言語接触の視点から－

〈所属学会〉日本言語学会、日本アフリカ学会、社会言語科学会

［研究業績］

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Maya ABE. Bantuization and Swahilization in Mbugu/Ma'a. The 8th International Conference on Bantu Languages. 発表採択済. University of Essex.

・Maya ABE. Swahilization in Mbugu: one-directional grammatical change induced by contact between Mbugu and Swahili. Sociolinguistic Perspective on Variation in Swahili. 2019/12/01. Universität Mainz

〈研究助成〉

・平成 31 年度科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 「タンザニア・マア語の 2 変種の社会言語学的記述研究－言語接触の視点から－」 (17J01084)

［マルチリンガル教育開発オフィス］

田中　美津子　(TANAKA Mitsuko) 講師

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉総合英語（Project-based English）、英語（Reading)、英語選択、実践英語（e-learning 入門）

［研究活動］

〈研究テーマ〉動機づけ、 評価

〈所属学会〉全国語学教育学会、大学英語教育学会、外国語教育メディア学会、日本言語テスト学会、American Association for Applied Linguistics

［研究業績］

〈論文〉

・Tanaka, M. (accepted for publication). Evaluating a scale's construct validity to assess the group work environment using the Rasch model. *JALT Journal*.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Tanaka, M. (2019, November). Gender differences in motivation to learn English. Paper presented at the 2019 biannual combined Applied Linguistics Association of Australia (ALAA) and the Applied Linguistic Association of New Zealand (ALANZ) conference, Curtin University, Perth, Australia.

・Tanaka, M. (2019, November). Group functioning in EFL group work. Paper presented at the 45th annual international conference of the Japan Association for Language Teaching (JALT), Aichi Industry and Labor Center (WINC AICHI), Nagoya, Aichi.

〈研究助成〉

・2017～2019 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究 C「グループ環境が EFL 学習者の動機づけに及ぼす影響」（17K02993）研究代表者

［その他の活動］

〈社会貢献活動〉

・Language Learning (Wiley 発行国際誌) 査読委員、Language Testing (SAGE 発行国際誌) 査読委員、Studies in Second Language Learning and Teaching (Adam Mickiewicz University, Kalisz, Poland) 査読委員

柳田　亮吾　(YANAGIDA Ryogo) 特任助教（常勤）

［教育活動］

〈共通教育担当科目〉英語

［研究活動］

〈研究テーマ〉社会言語学（イン／ポライトネス研究）・批判的談話研究

〈所属学会〉社会言語科学会、日本語用論学会、International Pragmatics Association

［研究業績］

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Seiko Otsuka, Ryogo Yanagida (2019) The interactional function of "-yaru" in Kansai dialect, 1st East Asian Pragmatics Symposium (at Dalian University of Foreign Languages, China).

・Seiko Otsuka, Tomoko Tani, Ryogo Yanagida (2019) Analyzing Im/Politeness Strategies in Conflictive Message Exchanges between Fellow-Moms in Japan, 16th International Pragmatics Conference (at Hong Kong Polytechnic University, China).

・Ryogo Yanagida, Seiko Otsuka (2019) A caste system to divide fellow-moms (or mama-tomo câsuto) in Japan: Ideology and relational work, 16th International Pragmatics Conference (at Hong Kong Polytechnic University, China).